

TUFS Profile 2017

概要 2017

Terima kasih
Cám ơn
شكر
ຂອບໃຈ
ขอบคุณ ครับ
Terima kasih
شكرا
Obrigado
Gracias
謝謝
Merci
Благодаря
Grazie
Děkuji
Спасибо
Tokyo University of Foreign Studies
धन्यवाद
Dziękuję
Teşekkürler
Danke
អរគុណ
ありがとう
Salamat
धन्यवाद
고맙습니다
THANK YOU
شکر



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

世界へ！

CONTENTS もくじ



02	学長メッセージ	
03	第三期中期目標	
	TOPIC 1	
04	現代アフリカ地域研究センター創設	
	TOPIC 2	
06	スーパーグローバル大学構想	
	TOPIC 3	
08	国際日本研究の推進	
	TOPIC 4	
10	大学の世界展開力強化事業	
12	早わかり東京外大	
14	世界に広がる学術交流協定	
16	研究力	
	教員専門分野一覧	
	主な研究組織	
	アジア・アフリカ言語文化研究所	
	南アジア研究センター	
	現代アフリカ地域研究センター	
	国際日本研究センター	
	語学研究所	
	海外事情研究所	
	総合文化研究所	
	国際関係研究所	
	顕著な研究活動	
24	教育力	
	言語文化学部	
	国際社会学部	
	大学院総合国際学研究科	
	留学生日本語教育センター	
30	学生支援	
	ワールド・ランゲージ・センター	
	附属図書館	
	総合情報コラボレーションセンター	
	留学支援共同利用センター	
	グローバル・キャリア・センター	
	ボランティア活動スペース	
	保健管理センター	
	学生相談室	
38	社会の中の大学	
	TUFS オープンアカデミー	
	社会・国際貢献情報センター	
	多言語・多文化教育研究センター	
	TUFS Cinema	
	大学文書館	
	東京外国語大学出版会	
	大学間連携 / 高大連携	
46	TUFS データ集	
	沿革略史 / 変遷 / 教職員・役職者 / 運営組織 / 教育研究組織 / 学生数在籍者数 / 入学者数・入学志願者数 / 留学生数 / 留学者数 / 国際学術交流協定校数 / 2016年度卒業・修了者数 / 教育・研究プロジェクト一覧 / 附属図書館蔵書数 / 出版物数 / TUFS オープンアカデミー / 大学の財政状況 / 土地・建物 / スーパーグローバル大学構想 目標指標	

Message from the President

学長メッセージ

TUFS towards Interculturality through Language and Area Studies



東京外国語大学長
立石博高

昨今、産官学の各方面から「グローバル人材の育成」が唱えられています。21世紀に入り、国内市場と海外市場の境目がなくなり、国境を越えて人と物が大規模に移動するなど、「グローバル化」がますます進んでいます。そして、世界のあらゆる地域の経済・社会・文化がこのグローバル化に巻き込まれるという状況の中、物事への対処には、あたかも鳥が空から見おろすような、物事の全体像を地球規模で捉え、的確な判断を下す「俯瞰的視野」をもつ「グローバル人材」が必要とされています。

東京外国語大学は、江戸末期、幕府が設けた洋学の研究・教育施設で、外交文書の翻訳もおこなった本学の前身である蕃書調所以来、150年を超える歴史の中で、一貫して「グローバル人材」の育成をおこなってきました。「広い視野と優れた言語運用能力、世界の諸地域に関する深い知識を備え、異文化間の相互理解に寄与し、日本と世界を結ぶ人材、全地球的課題に取り組むことのできる人材」を広く社会に送り出していくことを本学の役割と考えています。卓越した「グローバル人材」にとって欠かさないのは、「主体性」、「積極性」、そして「チャレンジ精神」です。本学は、学生たちがさまざまな学習と課外活動などを通じてこれらのものを身につけられるように支援しています。そして、大学卒業後は、豊かな想像力と批判的思考力をもったマルチリンガルな地球市民として世界各地で活躍してもらいたいと願っています。グローバル化が進展する現代において、異文化理解と多文化共生を学び文化的多様性を尊重するインターカルチャリティ (interculturality) を身につけた人材を国際社会に輩出し続ける東京外国語大学にご期待ください。

第三期中期目標

2016(平成28)年度～2021(平成33)年度

世界諸地域と日本を結ぶ教育研究拠点大学 世界の言語・地域の理解を基盤とし、異文化間の対話と相互理解、 地球社会における人々の共存・共生に寄与する東京外国語大学

東京外国語大学は、1873年に建学された東京外国語学校の使命を引き継ぎ、外国の言語とそれを基底とする文化一般を研究・教授し、言語を通して外国に関する理解を深めることを目的として、日本と世界諸地域を結ぶ人材を養成してきました。やがて建学150周年を迎えるにあたり、世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の中心として、また、学際的研究拠点としての役割をさらに明確にします。すなわち、広い視野と優れた言語運用能力、世界の諸地域に関する深い知識を備え、異文化間の相互理解に寄与し、日本と世界を結ぶ人材、全地球的課題に取り組むことのできる人材の養成を目指すとともに、世界の最先端の水準をもつ研究成果を発信していきます。

教育

日本のグローバル化を先導する大学として、キャンパスのグローバル化や、海外の教育機関と連携した世界の言語・文化・社会の教育研究を通じて、全地球的課題に取り組み、世界諸地域の人々と協働できる多言語グローバル人

材を養成します。また、日本社会の文化的発信力を強化する教育研究の機能を高めるために、国際的視野からの日本研究を推進し、留学生教育の拠点として国内外の教育機関と連携します。

研究

グローバルな視点に基づく世界諸地域の政治・経済・社会、文化・諸言語の研究並びに日本及び日本語に関する研究を推進します。また、共同利用・共同研究拠点として、

アジア・アフリカ地域の諸問題及び諸言語に関する研究をリードし、研究蓄積を情報資源化する事業を国内外の研究機関・研究者とともに推進します。

社会貢献

自治体や民間企業、各種NGOと多面的に協働し、世界諸地域・諸言語に関する知識や研究成果と、多文化共生社会の実現をめぐる具体的課題とを結ぶ社会実装教育に取

り組みます。また、知識社会における生涯教育やリカレント教育のニーズに積極的に応え、大学が中心となって市民社会の文化的活性化を図ります。

このようにして本学は、これまで培ってきた日本を含む世界諸地域の知識・経験をもとに、多面的な大学連携を推進する「ネットワーク中核大学」として、高等教育全体のグローバル化を牽引し、地球社会における人々の共存・共生に寄与します。



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

TOPIC 1

African Studies Center - TUFS

現代アフリカ 地域研究センター創設



現代アフリカ地域研究センターは、東京外国語大学における長年のアフリカ研究の蓄積を踏まえて、現代アフリカの諸問題に関する研究の拠点として2017年4月に設立されました。日本で初めて「現代アフリカ」を掲げて大学に設置された機関です。

interview
1

武内センター長にインタビュー

—まずは現代アフリカに関する日本の戦略的重要性を簡単に教えてください

武内：近年の世界で、アフリカの重要性は着実に高まっています。日本は貿易投資の拡大、外交関係の緊密化、民間交流の広がりといった形でアフリカ諸国との繋がりを強めてきました。今日そのさらなる強化はもとより、国際社会の一員として、貧困削減、平和構築、気候変動、生物多様性保護といったアフリカに関わるグローバルな課題に対して一層の取り組みを求められています。

—二国間関係だけでなく国際社会との関係でもアフリカは重要だということですね

武内：はい。日本は近年、アフリカ開発会議(TICAD)をはじめとする様々な努力を通じて、アフリカとの関係強化に官民を挙げて取り組んできました。アフリカ諸国との二国間関係の強化に一層の努力が払われるべきことは当然ですが、開発、平和構築、気候変動といったアフリカをめぐる諸課題はいずれもグローバル



ルガバナンスの重要なイシューであり、これらへの対応は国際協調主義を掲げる日本にとっての重要な試金石です。

—アフリカの重要性を認識して対応するために必要なことは何でしょうか

武内：現代アフリカの特徴は、その社会が急速に変化していること、そしてそこに多様なアクターが関与していることです。そのため、直接的な国益に関わる知見だけでなく、グローバルなプレイヤーとしての知見や、アフリカのコンテキストを理解するための知見が必要に

なってきます。また、アカデミアに加え、政府関係機関やNGO、民間企業やメディアなど現代アフリカに関わる様々なアクターをつなぐネットワークの構築やそれを通じた人材育成が大切です。

—それらの背景を踏まえて、本センターが担うべき役割は

武内：まず、現代アフリカの持つ重要性を専門外の人々に向けて発信し理解に資する活動です。その意味で、多様なアクターと積極的に繋がり、相互に裨益するネットワークを構築することは、本センターの重要な役割だと認識しています。センターの名前にある「地域研究」もキーワードです。開発にせよ、平和構築にせよ、気候変動にせよ、現代アフリカが直面する諸課題に取り組むためには、複数の学問分野にわたる知識が必要です。私たちは、そうした地域研究の取り組みを進めつつ、多様なアクターによる相互裨益的なネットワークのハブとして機能することを目指します。

—本学へ設置することの意義は

武内：本学には、アジア・アフリカ言語文化研究所や国際社会学部アフリカ地域をはじめとしたアフリカ研究の厚い蓄積があり、日本屈指のアフリカ研究者の集積地です。加えて、本学は「翻訳すること」に強い専門性を持っています。翻訳とは、単にある言葉を他の言語で置き

換えることではなく、その言葉が発せられたコンテキストを理解し、それを他の言語のコンテキストで説明することです。文化や社会、政治や経済、そして歴史を学ぶことが、コンテキストの理解に不可欠です。これは地域研究の営みそのものですが、東京外国語大学は地域研究という概念が浸透するはるか以前からそれを実践してきました。そこに現代アフリカ地域研究センターが設置されるのは、きわめて自然なことなのです。

—本センター当面の目標は

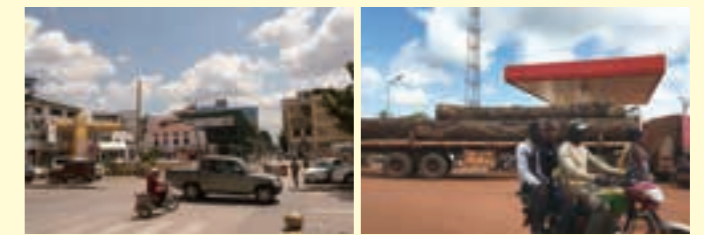
武内：3点挙げます。第1に、アフリカに関わる多様な人々をつなぐネットワークを充実させること。第2に、質の高いアフリカ研究を実施すること。そして第3に、アフリカを愛し、理解するアフリカニストを育てることです。これらを実現させるために、皆様のご指導ご鞭撻をお願いしたく存じます。

Profile

現代アフリカ地域研究センター
センター長

武内進一 TAKEUCHI Shinichi

東京外国語大学卒業後1986年にジェトロ・アジア経済研究所に入所し、アフリカ研究に従事。「現代アフリカの紛争と国家」(明石書店)でサントリー学芸賞受賞。
専門分野：アフリカ研究(中部アフリカ)、国際関係論



現代アフリカに関する研究・教育の拠点機能に加え、アフリカ研究者の招聘や国内外のアフリカ研究機関との連携を通じて現代アフリカ研究のネットワークを構築し、そのハブとして機能することを目指します。研究・教育やネットワーク構築の成果は、現代アフリカの諸問題に対応できる人材の育成や関心を共有する諸機関への幅広い情報提供によって社会還元するとともに、ウェブサイトを通じて積極的に発信していきます。

TOPIC 2

スーパースーパーグローバル大学構想

世界から日本へ、日本から世界へ 人と知の循環を支えるネットワーク中核大学

東京外国語大学は、文部科学省「スーパースーパーグローバル大学創成支援」事業の「グローバル牽引型大学」として、世界トップレベルの大学との交流・連携を実現し、世界で活躍できるグローバル人材を社会に送り出す機能と体制を備えています。2023年度までに、人と知の循環を支えるネットワーク中核拠点としての機能を強化し、グローバル社会を牽引する人材の養成を行なう教育・研究のグローバル化を進めています。

本学の将来像

- ▶ 真の多言語グローバル人材を養成する大学
- ▶ 日本から世界への発信を担う大学
- ▶ 日本の大学のグローバル化を支援する大学



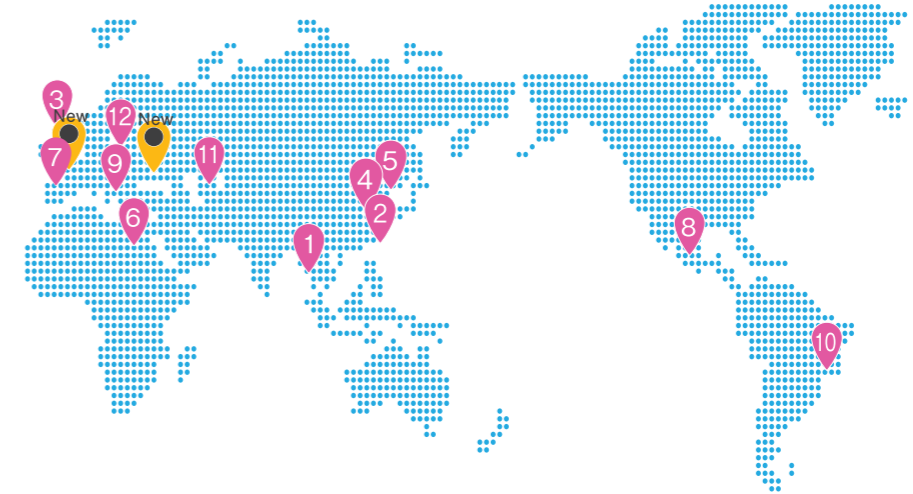
本学の構想と取組

- ▶ 多言語グローバル人材養成プラン
 - 自主的計画的な学びの TUFS クォーター制
 - 留学 200%+ 受入れ留学生 2 倍
 - Joint Education Program
 - 語学を中心とした教育指標の可視化
 - 多言語カリキュラム
- ▶ 発信力強化プラン
 - 世界各地に Global Japan Office 設置
 - 全学教養日本カプログラム
- ▶ 大学グローバル化支援プログラム
 - TUFS 留学支援共同利用センターの活用
 - Global Japan Office の共同利用



Global Japan Office の世界展開

東京外国語大学と綿密な関係をもつ海外の交流協定校に「日本語教育・日本教育」や「Joint Education Program」の拠点となる Global Japan Office を設置しています。2023 年度までに、世界各地に 38 拠点設置することを目標としています。2014 年 12 月に、ヤンゴン大学(ミャンマー)に最初の拠点を設置し、これまで 12 拠点を設置しました。2017 年度は、新たにライデン大学(オランダ)やリヴィウ国立大学(ウクライナ)などに Global Japan Office を開設予定です。



- ① ヤンゴン大学(ミャンマー) ④ 上海外国語大学(中国) ⑦ サラマンカ大学(スペイン) ⑩ リオ・デ・ジャネイロ州立大学(ブラジル)
- ② 淡江大学(台湾) ⑤ 韓国外国語大学校(韓国) ⑧ グアナフアト大学(メキシコ) ⑪ 国際人文開発大学(トルクメニスタン)
- ③ ロンドン大学 SOAS(英国) ⑥ カイロ大学(エジプト) ⑨ ベオグラード大学(セルビア) ⑫ ヴィータウタス・マグヌス大学(リトアニア)

New 2017年度開設予定: ライデン大学(オランダ)、リヴィウ国立大学(ウクライナ)など (2017年5月1日現在)

interview 2

Global Japan Office について伊東祐郎副学長にインタビュー

Global Japan Office は、世界の日本語教育や日本教育をサポートしていくことを目的としています。東京外国語大学は、世界中の日本語教育の拠点とは昔から強い絆を持っています。現地のことを知らない日本語の専門家が教えに行くのではなく、相手のニーズや大学の仕組み、教育の状況など十分に把握した上で協力できるのが本学の強みです。今後は、派遣学生の現地でのインターンシップ支援などを担う機能ももたせていく予定です。

世界の日本語教育をサポートしていく



伊東祐郎 ITO Sukero 国際交流等担当副学長、附属図書館長 東京外国語大学国際日本学研究院教授 専門分野: 日本語教育学

東京外国語大学の強みを活かした国際日本研究の推進



東京外国語大学は、日本研究と日本語教育における長い歴史と豊富な実績があり、高度な能力を有する教員・研究者が数多く在籍しています。この強みを最大限に活かし、その機能をさらに強化する取り組みを行っています。この取り組みは、文部科学省が大学改革に積極的な取り組みを行う大学を重点支援するための「国立大学の機能強化」事業として、2015年度に認められました。

東京外国語大学は、日本研究や日本語教育を行う教員・研究者を豊富に有していますが、国際的な視野から見た日本研究・日本語教育の教育研究体制をさらに強化するため、これらの専任教員に加え、アジア・アフリカ研究・教育コンソー

シアム(CAAS)加盟機関から研究者を招へい*し、ユニットを構成しています。研究者は短期間の研究交流だけでなく、中長期にわたり、講義や論文指導などもあたっています。さらに国立国語研究所(NINJAL)の協力を得て構築されたユ

ニットとあわせて、卓越した日本研究・日本語教育の拠点からユニットを招致することにより、国際的な日本研究者を養成すると同時に、東京外国語大学を国際的な日本研究のプラットフォームとして確立しています。

※東京外国語大学が加盟する「アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム (Consortium for Asian and African Studies : CAAS)」のうち6つの研究教育機関 (INALCO (フランス)、ライデン大学 (オランダ)、韓国外国語大学 (韓国)、シンガポール国立大学人文社会科学部 (シンガポール)、ロンドン大学SOAS (英国)、コロンビア大学 (米国)) から、毎年複数の日本研究者を招へいして共同研究を行っています。

主要な取り組み

国際的な日本研究拠点のユニット招致

CAAS ユニット

日本研究の世界的拠点を構成機関とするCAAS(アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム)を母体に、第一線の外国人日本研究者を招へいし、外国人研究者と日本人研究者で構成されるユニット。

期待される効果

- 1 日本における日本研究の国際化・総合化
- 2 日本からの発信力の強化
- 3 日本の文化・社会に関する国際的な視点を日本人学生が獲得
- 4 世界のトップレベルの大学との連携教育の確立とその国内他大学への提供



私

はロンドン大学SOASで日本映画を研究していましたが、2015年度から本学のCAASユニットで教育研究を行っています。日本映画の中でも1920年代から50年代が主な研究領域で、特に映画監督の伊丹万作に注目して研究を進めています。伊丹十三監督の父親として有名な伊丹万作ですが、実は彼自身、俳優や脚本も手がけるほど多才で非常に優れた人物でした。徹底した

interview 3 イリス・ハウkamp先生にインタビュー

リアリストであり、新聞や映画雑誌への寄稿を読むと、当時の社会情勢を冷静に分析的確かな指摘をしていることがわかります。映画は、当時の社会世相を反映すると同時に、それに対する製作者の考えや意図を読み取ることができます。戦時中の映画を研究することで、人々がいかに戦時を生き抜いたのか、また戦時下のメディアの役割とはどのようなものだったのかを探ることができます。

授業では、日本の戦争映画などを題材に、細かな台詞やカメラのアンクルなども含めて製作者の意図を探るような内容にしています。メディア、政治、社会の相互作用を検討・理解することを通じて、日本の歴史・現在・未来についてあらためて考えるきっかけになれば幸いです。

映画を通して
考える
日本の歴史と未来

イリス・ハウkamp

Iris Haukamp

大学院国際日本学研究院
特別招へい講師
専門分野：映画論



国立国語研究所の協力を得て構築

NINJAL 日本語研究ユニット

世界の日本語研究を主導する国立国語研究所(NINJAL)の協力を得て構築されたユニット。

期待される効果

- 1 研究教育水準の高度化
- 2 大学院教育と先端的研究の連携
- 3 研究資源の最大限の活用

- ▶ 東京外国語大学における「日本」に関する研究・教育力の高度化
- ▶ 国際的な日本研究者を養成すると同時に、国際的な日本研究のプラットフォームとして確立、すでに本学と強いきずなをもつ世界の日本語研究拠点における日本研究の高度化とネットワーク化に寄与する

大学院博士前期課程／後期課程の改組

国際的な視点から日本研究を推進する国際日本専攻の新設

博士前期課程

2016年度より：
世界言語社会専攻、国際日本専攻（2専攻）

2015年度以前：
言語文化専攻、言語応用専攻、地域・国際専攻、
国際協力専攻（4専攻）

博士後期課程

2018年度より：
世界言語社会専攻、国際日本専攻（2専攻）

2017年度以前：
言語文化専攻、国際社会専攻（2専攻）

TOPICS 4

大学の世界展開力強化事業

中南米

日本と中南米が取組む地球的課題を解決する文理協働型人材養成プログラム

東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学の3大学連携事業

中南米諸国で取り組むべき地球規模の課題（環境、資源エネルギー、食料、社会・経済開発等）を解決するために、日本の3つの大学（東京外国語大学・東京農工大学・電通通信大学）と、ブラジル、メキシコ、ペルー、アルゼンチン、コ

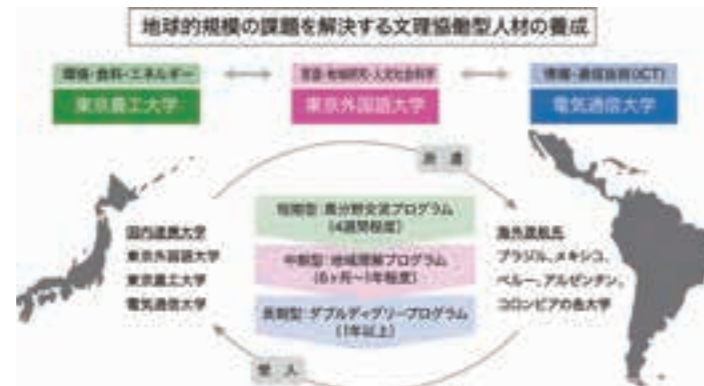
ロンビアの大学の間で、学生を短期・中期・長期に交換し、実践型グローバル人材を養成することを目的にプログラムを実施しています。

連携大学

東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学

海外連携大学

カンピナス州立大学、パウリスタ総合大学、リオ・デ・ジャネイロ州立大学、パラナー連邦大学（以上ブラジル）、チャビンゴ自治大学、グアナファト大学、メキシコ国立自治大学、国立工科大学（以上メキシコ）、エアフィット大学（コロンビア）、国立ラプラタ大学（アルゼンチン）、ラ・モリーナ国立農業大学（ペルー）



interview 4

事業推進責任者の岩崎稔理事・副学長にインタビュー

本 事業は、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学が協働して行う文理協働型人材養成事業の第一歩となるプログラムです。留学生の送り出し、受入れを3大学が協働して行い、3大学の学生が参加する留学前教育などを通じ、文科系の本学学生も、理系系学生とともに課題発見型の学修を行います。さらに現地での学習、インターンシップにより、真の国際人として活躍できる実践型グローバル人材を養成します。ご期待ください。

実践型グローバル人材を養成



岩崎 稔
IWASAKI Minoru
理事、副学長
(人事、研究、機関連携等担当)
大学院総合国際学研究院教授
専門分野：哲学・政治思想

ASEAN 地域

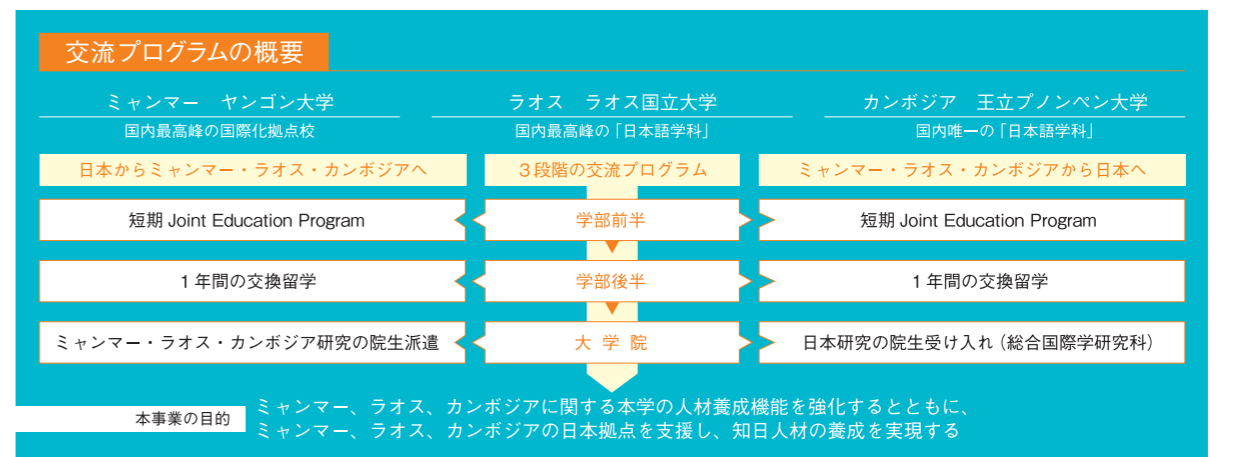
日本発信力強化に貢献する

ミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム

東京外国語大学でビルマ語・ラオス語・カンボジア語を学ぶ学生と、ミャンマー・ラオス・カンボジアの中核大学の学生を双方向に交換し、共同学習や学術交流を軸として、互いの国の架け橋となる人材を養成することを目的としています。さらに下記に示す長期的な段階的交流を通じて、それぞれの国で日本教育・日本語教育にあたる教育人材の育成に寄与することを目指しています。

連携大学

ヤンゴン大学（ミャンマー）、ラオス国立大学（ラオス）、王立ブノンベン大学（カンボジア）



interview 5

事業推進責任者の鈴木玲子教授にインタビュー

東 南アジアの中でも近年、日本との交流支援の動向が著しいミャンマー・ラオス・カンボジアにおいて、日本教育・日本語教育体制の充実が急務と言えます。本事業は、本学と親密な関係にある協定大学と共に実施するもので、学生主体の、そして次の世代の教育に資するためのプログラムです。将来、日本とこれら3国を中心とした国際舞台で活躍する知日人材や日本事情・日本語教育者養成に努めています。ご理解とご協力をお願い致します。

現地で日本教育・日本語教育にあたる人材の養成



鈴木 玲子
SUZUKI Reiko
大学院総合国際学研究院教授
専門分野：ラオス語学、タイ(Tai)諸語の研究

01

2023年に建学
150
周年を迎えます

大学の歴史

起源	江戸時代の蕃書調所 (1857)
建学	東京外国語学校 (1873)
創立	高等商業学校 附属外国語学校 (1897)
独立	東京外国語学校 (1899)
新制大学発足	東京外国語大学 (1949)

02

主な組織

学部	言語文化学部、国際社会学部
大学院	大学院総合国際研究科
研究所	アジア・アフリカ言語文化研究所
その他	留学日本語教育センター 附属図書館など

03

蔵書数

約 **86** 万冊

和漢書	約 30 万冊
洋書	約 46 万冊
製本雑誌等	約 9 万冊

世界各地域から
280
を超える言語資料

早わかり

04

在籍学生数

学部	3,851 名
言語文化学部	1,895 名
国際社会学部	1,910 名
外国語学部 (学部改変により募集終了)	46 名
大学院	536 名
博士前期	323 名
博士後期	213 名
留学生※	677 名

在学生数 計 **4,698** 名

※ 学部・大学院正規学生計366名含む、学部進学留学生除く

05

学部留学者数

短期留学 (6ヶ月未満)	583 名
長期留学 (6ヶ月以上)	782 名
交換留学	328 名
その他	454 名

計 **1,365** 名

目指せ！留学
200
%

06

学べる言語数

計 **70** 言語

主専攻語

27 言語

英語、ドイツ語、ポーランド語、チェコ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、モンゴル語、日本語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ウルドゥー語、ヒンディー語、ベンガル語、アラビア語、ベルシア語、トルコ語

主専攻語以外

45 言語

07

教職員数

役員等	8 名
教員	258 名 (うち外国人教員 42 名)
事務局	113 名
その他	24 名
計	403 名

国際化のための多様性

外国の大学での学位取得の教員	49 名
3年以上海外で研究教育経験者(日本人)	46 名
外国の大学での学位取得した事務職員	5 名
1年以上海外職務経験の事務職員	10 名

08

女性比率

女性役員等	2 名 / 8 名中 (25.0%)
女性部局長	4 名 / 7 名中 (57.1%)
女性教員	95 名 / 257 名中 (36.9%)
女性職員	53 名 / 139 名中 (38.1%)
学部生	2,535 名 / 3,851 名中 (65.8%)
大学院生	321 名 / 536 名中 (59.8%)

TUFS に関する 10 のこと

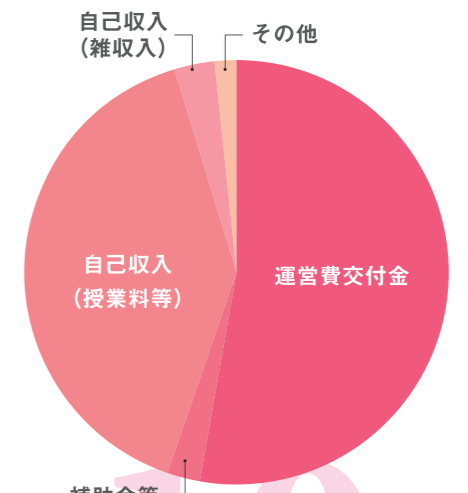
東京外大

09

海外協定校

69 カ国 **182** 機関

アジア	18 カ国	60 機関
オセアニア	2 カ国	4 機関
中東	6 カ国	13 機関
アフリカ	10 カ国	13 機関
ヨーロッパ	24 カ国	71 機関
北アメリカ	2 カ国	11 機関
中南米	7 カ国	10 機関



10 予算

運営費交付金	3,000
補助金等	248
自己収入 (授業料等)	2,206
自己収入 (雑収入)	315
その他	168

(単位: 百万円)

■ ヨーロッパ 24カ国 71機関

- Austria**
 - Universität Wien
 - Österreichische Akademie der Wissenschaften
- Bulgaria**
 - Sofia University "St. Kliment Ohridski"
- Czech Republic**
 - Charles University
- France**
 - Université de la Sorbonne Nouvelle Paris III
 - École Supérieure d'Interprètes et de Traducteurs
 - Langues et cultures de l'aire tibétaine
 - Institut d'Études Politiques de Paris Fondation Nationale des Sciences Politiques
 - Institut National des Langues et Civilisations Orientales
 - Sciences Po Bordeaux
 - L' Université Sciences Humaines et Sociales - Lille 3
 - Université Paris Diderot
 - Stendhal - Grenoble 3 University
 - Université d'Aix-Marseille
- Germany**
 - Universität Bielefeld
 - Justus Liebig-Universität Giessen
 - Philipps-Universität Marburg
 - Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg
 - Georg-August-Universität Göttingen
 - Institute for African Studies, University of Cologne
 - Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology
 - Asien-Afrika Institut, University of Hamburg
 - Ludwig-Maximilians-Universität München
 - Freie Universität Berlin
- Hungary**
 - Central European University, Department of History
- Ireland**
 - University College Cork
- Italy**
 - Università degli Studi di Napoli "L'Orientale"
 - Università Ca' Foscari Venezia
 - Università degli Studi di Torino
 - Università degli Studi di Roma "La Sapienza"
 - University of Bologna
 - University of Trento
- Kazakhstan**
 - Al-Farabi Kazakh National University
- Lithuania**
 - Vytautas Magnus University
- Netherlands**
 - Leiden University
 - Royal Netherlands Institute of Southeast Asian and Caribbean Studies
- Norway**
 - The University of Tromsø
- Poland**
 - International Cultural Centre
 - Jagiellonian University
 - University of Silesia in Katowice
- Portugal**
 - Universidade de Coimbra
 - Universidade de Lisboa
 - The University of Porto
 - Camoes, Instituto da Cooperacao e da Lingua
- Romania**
 - Romanian Cultural Institute
- Russia**
 - Russian State University for the Humanities
 - M. V. Lomonosov Moscow State University
 - The Faculty of Philology and Arts, St. Petersburg State University
 - Far Eastern Federal University
 - Moscow State Institute of International Relations
- Serbia**
 - University of Belgrade
- Slovenia**
 - University of Ljubljana
- Spain**
 - Universidad de Sevilla
 - Universitat Pompeu Fabra
 - Universidad Autónoma de Madrid
 - The University of Salamanca
 - Instituto Cervantes
 - Institut Ramon Llull
 - University of Alcalá
 - The Etxepare Basque Institute
 - Universitat Autònoma de Barcelona
 - University of the Basque Country
- Turkmenistan**
 - International University for the Humanities and Development of Turkmenistan
- Switzerland**
 - L'Université de Genève
 - Universität Zürich
- Ukraine**
 - Ivan Franko National University of Lviv
- U.K.**
 - School of Oriental and African Studies, University of London
 - University of Leeds
 - The University of Manchester
 - University of Essex
- Uzbekistan**
 - Tashkent State Institute of Oriental Studies

■ アジア

- Bangladesh**
 - University of Dhaka
- Bhutan**
 - Dzongkha Development Commission
- Brunei**
 - Universiti Brunei Darussalam
- Cambodia**
 - Royal University of Phnom Penh
- China**
 - Shanghai International Studies University
 - Beijing Language and Culture University
 - Xiamen University
 - Northeast Normal University
 - Dalian University of Foreign Languages
 - Inner Mongolia University
 - Beijing Foreign Studies University
 - School of Foreign Studies, Peking University
 - Ningbo University
 - The Chinese University of Hong Kong
 - The University of Hong Kong
- India**
 - Central Institute of Indian Languages, Ministry of Education
 - Indian Statistical Institute
 - The University of Delhi
 - Centre for Development of Advanced Computing
 - Jadavpur University

18カ国・地域 60機関

- Indonesia**
 - Gadjah Mada University
 - Center for Social and Cultural Studies, Indonesian Institute of Sciences
 - Universitas Indonesia
 - Atma Jaya Catholic University of Indonesia
 - Faculty of Languages and Art, Manado State University
- Laos**
 - National University of Laos
- Malaysia**
 - Institute of Language and Literature Malaysia
 - The Institute for Development Studies, Sabah
 - Universiti Kebangsaan Malaysia
- Mongolia**
 - National University of Mongolia
 - Khovd University
- Myanmar**
 - University of Yangon
- Pakistan**
 - The University of Azad Jammu & Kashmir
 - Quaid-i-Azam University
 - Oriental College, University of the Punjab
- Philippines**
 - University of the Philippines
 - De La Salle University-Manila
- Republic of Korea**
 - Yonsei University
 - Seoul National University
 - Hankuk University of Foreign Studies
 - Sookmyung Women's University
 - Hanshin University
 - Sungkonghoe University
 - Cyber Hankuk University of Foreign Studies
 - Busan University of Foreign Studies
 - Kyung Hee University
 - Jeju National University

- Singapore**
 - The Faculty of Arts & Social Sciences, National University of Singapore
- Thailand**
 - Srinakharinwirot University
 - Faculty of Liberal Arts, Thammasat University
 - Chulalongkorn University
 - Chiang Mai University
- Vietnam**
 - University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University- Ha Noi
 - University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University- Ho Chi Minh City
 - University of Language and International Studies - VNU
- Taiwan**
 - National Chengchi University
 - National Taiwan University
 - National Taiwan Normal University
 - Tamkang University
 - Kainan University

■ 北アメリカ 2カ国 11機関

- Canada**
 - The University of British Columbia
 - University of Regina
- U.S.A.**
 - Cornell University
 - University of California, San Diego
 - University at Albany, State University of New York
 - Columbia University
 - San Diego State University
 - Stony Brook University, The State University of New York
 - University of Nebraska at Kearney
 - The University of Texas at Austin
 - University of Hawai'i at Mānoa

■ 中東 6カ国 13機関

- Iran**
 - Allameh Tabataba'i University
 - Islamic Azad University, Shiraz Branch
 - University of Isfahan
- Jordan**
 - Ali Baba International Center
- Lebanon**
 - American University of Beirut
 - Faculty of Human Sciences, Branch 1, Lebanese University
 - Orient Institute of the German Oriental Society-Beirut
- Syria**
 - Damascus University
- Turkey**
 - Ankara University
 - Boğaziçi University
 - Yunus Emre Institute
 - Marmara University
- Palestian Authority**
 - Birzeit University

■ 中南米 7カ国 10機関

- Argentina**
 - National University of La Plata
- Brazil**
 - Universidade do Estado do Rio de Janeiro
 - Universidade Federal do Paraná
 - Universidade Estadual de Campinas
- Colombia**
 - Universidad EAFIT
- Costa Rica**
 - University for Peace
- Cuba**
 - The University of Havana
- Mexico**
 - Universidad Nacional Autónoma de México
 - Universidad de Guanajuato
- Uruguay**
 - University of the Republic, Uruguay

■ アフリカ 10カ国 13機関

- Cameroon**
 - Délégation Générale à la Recherche Scientifique et Technique
 - University of Dschang
- Mozambique**
 - Lurio University
 - Eduardo Mondlane University
- Rwanda**
 - Protestant Institute of Arts and Social Sciences
- South Africa**
 - University of Pretoria
- Zambia**
 - University of Zambia
- Zimbabwe**
 - University of Zimbabwe
- Egypt**
 - Cairo University
 - Ain Shams University
- Ghana**
 - Ghana State University
- Mali**
 - L'Institut des Sciences Humaines
- Morocco**
 - University Mohammed V-Agdal

■ オセアニア 2カ国 4機関

- Australia**
 - Australian National University
 - The University of Melbourne
- New Zealand**
 - The University of Auckland
 - Victoria University of Wellington

世界に広がる

学術交流協定



研究力

教員専門分野一覧

主な研究組織

アジア・アフリカ言語文化研究所

南アジア研究センター

現代アフリカ地域研究センター

国際日本研究センター

語学研究所

海外事情研究所

総合文化研究所

国際関係研究所

顕著な教員活動

教員 専門分野一覧

2017年7月1日現在

総合国際学研究院 世界言語社会教育センター総合国際学研究系 現代アフリカ地域研究センター

■ 言語研究・言語応用研究

秋廣 尚恵	フランス語学
五十嵐 孔一	朝鮮語学
市川 雅教	統計学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
大谷 直輝	認知言語学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
金指 久美子	スラブ語学
川口 裕司	フランス語学
川上 茂信	スペイン語学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
斎藤 弘子	英語音声学
佐野 洋	情報工学
菅原 睦	チュルク語
鈴木 玲子	ラオス語学
高島 英幸	英語教育学
趙 義成	朝鮮語学
鶴田 知佳子	通訳・翻訳学
投野 由紀夫	コーパス言語学
内藤 稔	コミュニティ通訳研究
中川 裕	音声学・音韻論
長屋 尚典	オーストロネシア諸語
成田 節	ドイツ語学
南 潤珍	朝鮮語学
温品 廉三	モンゴル語学
根岸 雅史	英語教育学
野元 裕樹	マレー語学
匹田 剛	ロシア語学
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学
ボルロンガン, A. M.	社会言語学
益子 幸江	音声学
萬宮(小牧) 健策	ウルドゥー語
箕浦 信勝	言語学、手話諸言語
三宅 登之	現代中国語
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理
森田 耕司	スラヴ言語学
山本 真司	イタリア語学
吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得

■ 文化研究

青山 亨	東南アジア宗教史
栗屋 利江	南アジア近代史
岩崎 務	西洋古典文学
岡田 和行	モンゴル近代文学
岡田 知子	カンボジア文学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
川島 郁夫	中国近世文学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
コースィット, T. T.	タイ文化・文学
小久保 真理江	芸術文化
逆井 聡人	比較文学
佐々木 あや乃	ベルシア古典文学
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学
武田 千香	ブラジル文学
田島 充士	教育心理学
西岡 あかね	ドイツ文学

丹羽 京子	ベンガル文学
沼野 恭子	ロシア文学
野平 宗弘	ベトナム文学
博多 かおる	フランス文学
萩田 博	ウルドゥー語学・文学
橋本 雄一	中国近現代文学
林 和宏	イタリア古典文学
林 佳世子	西アジア史
藤井 守男	ペルシア文学・思想
前田 和泉	現代ロシア文学
松浦 寿夫	フランス近代芸術
真鍋 求	神経生理学
丸山 空大	宗教学
水野 善文	インド思想
八木 久美子	イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想
吉本 秀之	科学技術史

■ 地域研究・国際研究

青木 雅浩	モンゴル近現代史
青山 弘之	現代東アラブ政治
伊東 剛史	イギリス近代史
伊勢崎 賢治	平和構築
今井 昭夫	ベトナム近現代史
今福 龍太	メディア批評
岩崎 稔	哲学・政治思想
内山 直子	ラテンアメリカ地域研究
大石 高典	アフリカ地域研究
大川 正彦	現代政治理論
小笠原 欣幸	台湾政治
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
小田原 琳	イタリア史
加藤 美帆	教育社会学
金井 光太郎	アメリカ史研究
蒲生 慶一	国際経済学
菊池 陽子	ラオス近現代史
木村 暁	中央アジア史
金 富子	ジェンダー論
木村 暁	中央アジア史
日下部 尚徳	バングラデシュ現代社会論
久米 順子	西洋美術史
倉田 明子	中国近代史
栗田 博之	オセアニア研究
小松 久男	中央アジア近現代史
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
佐々木 孝弘	アメリカ社会史
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠田 英朗	平和構築
篠原 琢	中東欧近代史
島田 志津夫	中央アジア地域研究
鈴木 茂	ブラジル史
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究
芹生 尚子	フランス社会史
左右田 直規	マレーシア政治社会史
相馬 保夫	ドイツ近現代史
武内 進一	アフリカ研究
田島 陽一	国際経済学
巽 由樹子	ロシア近現代史
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
出町 一恵	国際経済論
土佐 桂子	東南アジア人類学
中山 智香子	経済思想・社会思想
中山 裕美	国際関係論
丹羽 泉	朝鮮宗教学

福嶋 千穂	近世ポーランド史
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学
松隈 潤	国際法
松永 泰行	政治学・国際関係論
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
李 孝徳	比較文学
若松 邦弘	比較政治
渡辺 周	経営学
渡邊 啓貴	ヨーロッパ国際関係論

国際日本学研究院 世界言語社会教育センター国際日本学研究系

阿部 新	社会言語学
荒川 洋平	認知言語学
石澤 徹	日本語教育学
伊集院 郁子	日本語教育学
伊東 克洋	応用言語学
伊東 祐郎	日本語教育学
海野 多枝	言語教育学
大津 友美	日本語教育学
金子 比呂子	日本語教育学
川村 大	日本語学
楠本 徹也	日本語学
工藤 嘉名子	日本語教育学
小松 由美	異文化間コミュニケーション
坂本 恵	日本語学
柴田 勝二	日本近代文学
菅長 理恵	日本語・日本文学
鈴木 智美	日本語教育学
鈴木 美加	日本語教育学
セン, ラージ・ラキ	日本近現代文学
伊達 宏子	日本語教育学
谷口 龍子	日本語教育学
土田 久美子	多文化社会論
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学
中村 彰	日英統語論
長谷部 美佳	多文化コーディネーション論
花園 悟	日本語学
早津 恵美子	日本語学
春名 展生	日本史・日本政治
藤村 知子	日本語教育学
藤森 弘子	日本語教育学
ポーター, ジョン	日本史
宮城 徹	異文化間コミュニケーション
村尾 誠一	日本古典文学
妻 隆博	数学
林 俊成	言語教育工学

世界言語社会教育センター教育支援系

内海 陽子	日本語教育
岡 葉子	日本語教育
柏崎 正憲	連携教育支援
金子 麻子	英語教育
河内 彩香	日本語教育
渋谷 博子	日本語教育
鈴木 陽子	英語教育
波塚 奈穂	留学生教育支援

布川 あゆみ	比較教育学
古川 高子	留学生教育支援
梅野 毅	情報環境支援

アジア・アフリカ言語文化研究所

■ 言語学

荒川 慎太郎	西夏語学
伊藤 智ゆき	中期朝鮮語
小田 淳一	計量文献学
呉人 徳司	チュクチ語
児倉 徳和	シベ語
澤田 英夫	ビルマ系少数言語
塩原 朝子	インドネシア諸言語
品川 大輔	バントゥ諸語
芝野 耕司	多言語処理論
中山 俊秀	言語ドキュメンテーション研究
星 泉	チベット文化圏の言語学
峰岸 真琴	オーストラロアジア諸語
山越 康裕	モンゴル諸語
渡辺 己	セイリッシュ語

■ 地域研究・歴史学

飯塚 正人	中東地域研究
石川 博樹	アフリカの歴史
太田 信宏	インドの歴史
小倉 智史	南アジア地域研究
苅谷 康太	西アフリカ地域研究
栗原 浩英	ベトナム現代史
黒木 英充	中東地域研究
近藤 信彰	イラン近代史
陶安 あんど	中国法制史
高松 洋一	オスマン朝史
錦田 愛子	中東地域研究
野田 仁	中央アジア史

■ 文化人類学

河合 香史	東アフリカ牧畜民研究
佐久間 寛	アフリカ地域研究
椎野 若菜	東アフリカ民族誌
高島 淳	インド宗教史
外川 昌彦	南アジアの人類学
床呂 郁哉	東南アジア島嶼部の人類学
西井 涼子	東南アジア大陸部の人類学
深澤 秀夫	社会人類学
吉田 ゆか子	文化人類学



さらに詳しい情報は、東京外国語大学の研究者一覧のホームページもご参照ください。

<http://www.tufs.ac.jp/research/researcher/>



主な研究組織

Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

アジア・アフリカ言語文化研究所

本研究所は、共同利用・共同研究拠点としてアジア・アフリカの言語文化に関する総合的研究を行い、アジア・アフリカ世界に関する新たな認識枠組み提供のための基盤形成に寄与すべく、次の3つを使命としています。

- 1 臨地研究（フィールドサイエンス）に基づく国際的研究拠点としての共同利用・共同研究課題の実施
- 2 アジア・アフリカ諸地域の言語・文化等に関する研究資源の収集・分析・編纂および研究成果の発信
- 3 研究活動および研修・出版・セミナー等を通じた次世代研究者の養成

研究組織は、拠点認定された言語学、地域研究・歴史学、文化人類学の3分野の研究ユニットから成るプロジェクト研究部を設置しています。これらの研究ユニットがそれぞれ国内外の研究機関や現地コミュニティと連携して実施する国際共同研究を「基幹研究」として設定し、強力かつ集中的に共同研究を推進しています。また、共同研究を支援推進するため、2つのセンターを設置しています。国内外の研究情報資源の蓄積・加工・公開と、それを生かした共同研究手法の開発を行う「情報資源利用研究センター」、臨地研究を主体とするフィールドサイエンスの視点から研究手法の開発と研究企画を行う「フィールドサイエンス研究企画センター」です。さらに、全国の関連研究者から公募した「共同利用・共同研究課題」（共同研究プロジェクト）も実施しています。「共同利用・共同研究課題」の担い手である共同研究員は、国内外の最先端の研究を行っている328名の専門研究者であり、本研究所の所員との共同研究を活発に展開しています。

報資源利用研究センター」、臨地研究を主体とするフィールドサイエンスの視点から研究手法の開発と研究企画を行う「フィールドサイエンス研究企画センター」です。さらに、全国の関連研究者から公募した「共同利用・共同研究課題」（共同研究プロジェクト）も実施しています。「共同利用・共同研究課題」の担い手である共同研究員は、国内外の最先端の研究を行っている328名の専門研究者であり、本研究所の所員との共同研究を活発に展開しています。

■ 基幹研究

多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築

本基幹研究は、アジア・アフリカ地域を主な対象に、言語資源をもとにした言語・保存に関する共同研究を行うとともに、言語記録活動に従事する次世代の研究者・現地コミュニティ人材の

育成活動を行っています。また、これらの活動を通じて、諸研究機関のさらなる研究の進展を促す循環型の言語研究体制を構築し、そのモデルの普及と成果発信を行います。

中東・イスラーム圏における分極化とその政治・社会・文化的背景

本基幹研究は、中東からアフリカ、中央アジア、東南アジアまでを含めたイスラーム圏において、現在最大の問題となっている「分極化」の問題を多角的かつ統合的に分析し、その背景を明らかにすることを目標としています。本研究所のベイルート・カタキナバル両海外研究拠点と連携しながら、国際的規模で共同研究を推進します。

かにすることを目標としています。本研究所のベイルート・カタキナバル両海外研究拠点と連携しながら、国際的規模で共同研究を推進します。

アジア・アフリカにおけるハザードに対する「在来知」の可能性の探究

本基幹研究では、アジア・アフリカ各地域に根付いたやり方＝「在来知」の個別を越えた多様な状況への適応可能性に道を拓き、理論的・方法的な地平から捉え直し、リスク・ハザードに対処す

る人類の知を統一的に構想することを目的として、共同研究を進めています。

アジア・アフリカ言語文化研究所棟
☎ 042-330-5600
✉ ilcaa@aa.tufs.ac.jp
設置：1964年
HP：http://www.aa.tufs.ac.jp/



主な研究組織

FINDAS

南アジア研究センター

研究講義棟 700 室
☎ 042-330-5222
✉ findas_office@tufs.ac.jp
設置：2010年
HP：http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/



本センターは、現代南アジアの構造変動に関する理解を、重層化・多元化・輻輳化する社会運動の歴史・政治・社会学的分析、およびジェンダー視角を軸として深めることを目的とします。さらに、国内外の南アジア研究者のネットワークのハブとして共同研究を促進させるとともに、若手研究者の育成および本学が所蔵する文献・史料群を充実させることを目指します。

African Studies Center

現代アフリカ地域研究センター

研究講義棟 4 階 401E2
☎ 042-330-5540
✉ africanstudies-center@tufs.ac.jp
設置：2017年
HP：http://www.tufs.ac.jp/asc/



現代アフリカに関わる研究や教育の拠点としての機能に加え、アフリカ研究者の招聘や国内外のアフリカ研究機関との連携を通じて現代アフリカ研究のネットワークを構築し、そのハブとして機能することを目指します。研究・教育やネットワーク構築の成果は、現代アフリカの諸問題に対応できる人材の育成や関心を共有する諸機関への幅広い情報提供によって社会還元するとともに、ウェブサイトを通じて積極的に発信していきます。

International Center for Japanese Studies

国際日本研究センター

アゴラ・グローバル 2 階
☎ 042-330-5794
✉ info-icjs@tufs.ac.jp
設置：2009年
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/jp/



本センターは、日本語・日本語教育、日本文化・社会に関する研究分野について、個別的、総合的かつ複合的視点から調査研究し、その成果を国内外に発信するとともに、教育面にも反映・還元していくことを目指しています。日本語・日本研究をともに志す世界の研究者、とりわけ若手研究者のネットワークを構築し、国内外の諸機関と密接に連携して、双方向による多角的視野をもった国際共同研究を行います。

主な研究組織

Institute of Language Research

語学研究所



研究講義棟 419 室
☎ 042-330-5407
✉ ilr419@tufs.ac.jp
設置：1956 年 構成員：言語系教員約 70 名
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/



本研究所は、言語研究の全学的拠点として、日本をはじめ世界諸地域の言語・言語教育・言語科学一般についての先端的な研究・調査を行っています。研究成果の大学教育への応用はもとより、公開講座等を通して研究成果を広く社会に還元しています。刊行物には『語学研究所論集』などがあります。

Institute for Global Area Studies

海外事情研究所



研究講義棟 427 室
☎ 042-330-5405
✉ ifa@tufs.ac.jp
設置：1954 年 構成員：地域研究・歴史研究系教員約 50 名
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ifa/



本研究所は、世界の様々な言語を駆使して専門領域の政治・経済・文化の研究調査を行い、学際的共同研究を行います。シンポジウムの開催や刊行物を通じた研究成果の社会への還元、世界各地域に生起する諸問題に関する正確な理解の普及、社会における「知」の共有促進などを積極的に進めています。

Institute of Transcultural Studies

総合文化研究所



研究講義棟 422 室
☎ 042-330-5409
✉ tufs422ics@tufs.ac.jp
設置：1996 年 構成員：文学・文化系教員約 40 名
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/



本研究所は、ひろく文学・文化に関わる事象を扱いながら、文献学や翻訳学、批評理論はもちろん、美学・美術史、思想史や人類学とよばれる領域にまたがり研究を行っています。世界の個別言語や個別地域の特殊性をもたらず諸条件の総体を複合的かつ統合的に研究し蓄積することを目的としています。

Institute of International Relations

国際関係研究所



研究講義棟 401-3 室
☎ 042-330-5480
✉ iir@tufs.ac.jp
設置：2011 年 構成員：国際関係系教員約 20 名
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/fs/iir/



本研究所は、現代の国際社会の出来事を社会科学的分析、すなわち法律・政治・社会学・教育学などの分野からのアプローチを通して考察分析していくことを研究の中心に据えています。シンポジウムや連続講演会などの開催・運営にも取り組んでいます。刊行物には『現代世界の諸相』『国際関係論叢』などがあります。

近年の教員受賞

顕著な研究活動

IMAFUKU Ryuta



今福龍太教授 第68回読売文学賞(随筆・紀行賞)を受賞

著書『ヘンリー・ソロー 野生の学舎』(みすず書房)

「『森の生活』で知られるソローの独創的な思想について理解するための最上の本」「自然と人間の関わりを根本から考えたい人のための、また人生の得難い価値を求める人のための優れた一冊」「真の「アメリカ」とは何かについて多くの示唆を与えてくれる一冊」などと評価されています。

ARAKAWA Shintaro



荒川慎太郎准教授 第44回金田一京助博士記念賞を受賞

著書『西夏文金剛經の研究』(松香堂書店)

「先駆者たちの業績に依りながら、日本における西夏語・西夏文字の研究をさらに発展させた」「これまでの研究成果を、正確な校訂を施した信頼できるテキストに沿って検証し体系化」「西夏語研究においてだけでなく、文献言語学においても優れた業績」などと評価されています。

OKADA Kazuyuki



岡田和行教授 モンゴル国北極星勲章を受章

世界のモンゴル研究の発展へ寄与

モンゴル文学研究に顕著な業績をあげ、世界のモンゴル研究の発展へ寄与したとして、駐日モンゴル大使館でフレルバータル特命全権大使より北極星勲章が授与されました。

NISHIKIDA Aiko



錦田愛子准教授 大同生命地域研究奨励賞を受賞

中東地域における離散パレスチナ人難民に関する人類学的・政治学的研究

「離散パレスチナ人の生活の営みを地域全体の動向の中に位置づけて理解しようとする試みとして、高く評価」「地理的・空間的に調査対象を移して、これまでの分析手法と考察枠組みを適用することで、中東地域研究の新たな展開の可能性を示している」などと評価されています。

YAGI Kumiko



八木久美子教授 第7回辻静雄食文化賞を受賞

著書『慈悲深き神の食卓 - イスラムを「食」からみる』(東京外国語大学出版会)

「現代社会における産業的側面を含むイスラームの食を現実的な視点から語り、「食べる」という日常的な営みを通してイスラームの本質に迫る。日本では扱われることの少なかったイスラームの食をテーマとしている点で大きな意義がある」などと評価されています。

※ 2016 年 6 月 1 日～ 2017 年 5 月 31 日受賞者

教育力

言語文化学部
国際社会学部
大学院総合国際学研究科
留学生日本語教育センター



言語文化学部 / 国際社会学部

言語文化学部

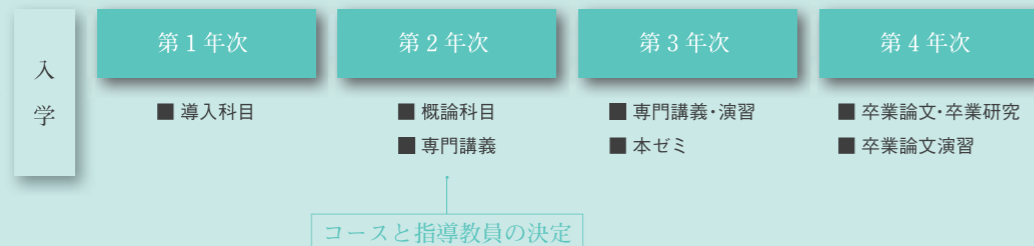
世界諸地域の言語と文化に通じ、国際社会の舞台で活躍できる国際教養人を養成

世界の言語・文化を学びたい



世界教養プログラム

本学の学生として高い知性を養うために用意された学部共通プログラム。1年次から4年次までに言語、地域および学術分野を履修するように組み立てられています。どちらの学部に入學しても、1・2年次はこのカリキュラムを中心に履修します。



国際社会学部

世界諸地域の歴史や社会のしくみに通じ、国際ビジネスで活躍できる国際職業人を養成

世界の地域・社会を学びたい

School of Language and Culture Studies

言語文化学部に入學した学生は、1・2年次で学部共通の世界教養プログラムを履修し、次の3つのコースに進學して、専門教育を学んでいきます。

- 言語・情報コース
- グローバルコミュニケーションコース
- 総合文化コース

学びの特徴

言語と文化というプリズムを通して人間と社会を学ぶ

- ① 世界のさまざまな地域の言語や文化の学習に重点
- ② 4年間を通じて、入學時に選んだ言語や英語、そのほかの外国語を多様に組み合わせて、高いレベルで習得
- ③ 人間の営みを分析する手法を学ぶ

養成する人材像

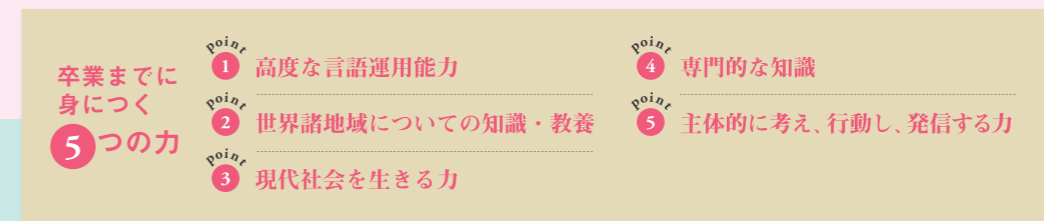
世界諸地域の言語と文化に通じ、国際社会の舞台で活躍できる国際教養人

【想定される進路】

出版、広告、観光、文化事業の企画、マスメディア、国際的に展開する企業（金融、商社、メーカーなど）、通訳、翻訳、外国語教育、日本語教育、大学院進學など

今、私たちの周りには、複数の言語や文化が併存する多言語・多文化社会が広がっています。複雑な現代にあっては、多様な関係性を読み解くことのできる洞察力、理解力、既成の概念にとらわれない柔軟な発想が求められています。言語文化

学部は、異なる言語と文化を背景にもつ人々をつなげ、相互のコミュニケーションを促進できる人材を養成します。こうした人材は、清新な文化や活動を創出し、豊かな人間社会や文化の発展に貢献します。



国際社会学部に入學した学生は、1・2年次で学部共通の世界教養プログラムを履修し、次の3つのコースに進學して、専門教育を学んでいきます。

- 地域社会研究コース
- 現代世界論コース
- 国際関係コース

学びの特徴

グローバルな視点で問題を考え、解決できる実践的な能力を備える

- ① 諸地域の政治・経済・社会とその歴史についての知識を深める
- ② 社会科学と関連する諸分野の方法論を体系的に学ぶ
- ③ グローバル化の中で生じている紛争や対立、現代世界が直面する諸問題の根源を洞察し、分析力と行動力を養う

養成する人材像

世界諸地域のしくみや人々の価値観に通じ、現地社会と協働して活躍できる国際職業人

【想定される進路】

外交官、国家・地方公務員、国際的に展開する企業（金融、商社、メーカーなど）、国際機関やNGO、マスメディア、社会科・地理歴史科の教員、大学院進學など

グローバル化の進展により経済格差や環境問題等、地球規模での課題が深刻化する一方で、世界各地で市民を巻き込んだテロや戦いの危機が身近な問題となっています。こうした世界の現状を正しく把握・分析し、問題の所在をつかみ、日本

をはじめとする国際社会がどのように問題解決に関わり、異なる宗教・民族・文化への寛容さを取り戻してゆくか、国際社会学部では具体的な地域の問題を取り上げ、国際的な視座から考える方法を学んでいきます。

School of International and Area Studies

大学院総合国際学研究所

日本や世界諸地域の言語、文化・社会をめぐる
個別的かつ総合的な研究と教育

大学院総合国際学研究所は、世界諸地域の言語・文化・社会をめぐる個別的かつ総合的な研究を主体とする我が国でも有数の教育機関であり、これらの分野における国際的拠点としての使命を担っています。従来から我が国と交流関係の深かったアジア地域、ヨーロッパ地域、アメリカ地域の言語・文化・社会に関する研究と教育では、百年を越す伝統を誇っています。その後、本学が研究・教育対象とする地域は拡大し、現在では、東南アジア、中東、東欧諸地域の言語・文化・社会の研究と教育も行

うなど世界的な拠点となっています。また、日本研究および日本語教育の国際的拠点でもあります。グローバル化の進行する現代社会で真に貢献できる人材には、専門分野でのより深い知識や高度な技術が求められています。本学大学院は、研究力に加え、総合力、実践力、そして世界で活躍するうえで必要な日本力を身につけ、世界や日本でグローバルに活躍する研究者・高度職業人の養成を目指しています。

世界を学ぶ、日本を学ぶ 博士前期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻
の2つの専攻からなっています。

世界言語社会専攻
(定員 102 名)
言語文化コース
国際社会コース
Peace and Conflict Studies コース

国際日本専攻
(定員 46 名)
国際日本コース
日本語教育リカレントコース

人文社会科学諸分野を究める 博士後期課程

言語文化専攻と国際社会専攻の2つ
の専攻からなっています。

言語文化専攻
(定員 20 名)

国際社会専攻
(定員 20 名)

※2018年度に「世界言語社会専攻」と「国際日本専攻」に改編予定。

留学生日本語教育センター

日本語教育研究の
世界的な拠点を目指して

留学生日本語教育センターは、1970年に設立された国内最大級の日本語教育機関で、本学のグランドデザインにある「日本語教育研究の世界的な拠点」を目指して活動しています。日本語教育プログラムでは、初級から始め1年間で上級レベルに達する国費学部留学生に対する入学前準備教育のほか、本学の留学生に対する「全学日本語プログラム(JLPTUFS)」を実施し、研究留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生、交換留学生、研究生等約80か国300名近い留学生に初級から上級までの8段階の日本語授業を提供しています。7月と1月にはショートステイプログラム

を実施し、100名以上の留学生に異文化理解を目指した体験型授業と日本語授業を提供しています。そのほか、日本語教育研究にかかわるプロジェクトを実施し、その成果は、センターの教育実践で応用されるだけでなく、国内外の教育機関でも用いられています。2012年には文部科学大臣より教育関係共同利用拠点に認定され、日本語教育連携・教材開発・実践教育研修の事業を展開しています。これにより、国内の大学がセンターの有する人的・物的資源を有効利用できるようになりました。センターは日本国内、そして、世界の日本語教育に貢献しています。



センターの教育プログラム

- 1 国費学部留学生予備教育プログラム (1年コース)
- 2 本学留学生のための「全学日本語プログラム」
- 3 ショートステイ (SS) プログラム

センターの教育研究開発プロジェクト

- 1 「JLPTUFS アカデミック日本語 Can-do リスト」の作成及び Web 公開
- 2 初級教材『大学の日本語 ともだち』刊行
- 3 中級教材『出会い』刊行
- 4 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 [中級 / 中上級 / 上級]』刊行
- 5 eラーニング教材 JPLANG 開発

学生支援

ワールド・ランゲージ・センター
附属図書館
総合情報コラボレーションセンター
留学支援共同利用センター
グローバル・キャリア・センター
ボランティア活動スペース
保健管理センター
学生相談室



ワールド・ランゲージ・センター

言語学習を支援するため、ワールド・ランゲージ・センター、通称 LINGUA（リングア）と呼ばれるセンターを設置しています。

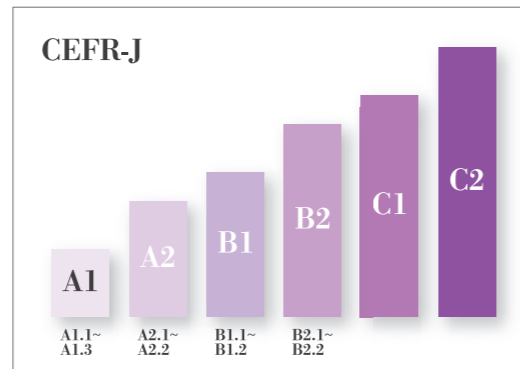
現在は、英語学習支援センターと CEFR-J 推進室を設け、それぞれ英語の自立学習支援、言語達成度の可視化の取り組みを行っています。

CEFR-J 推進室

言語の達成度を可視化

研究講義棟 4 階 401-2 室
☎ 042-330-5541
✉ cefr-j@tufs.ac.jp

ヨーロッパ言語共通参照枠 CEFR に準拠した CEFR-J 基準により、本学で教育する 27 の専攻言語の達成度を可視化するプロジェクトを推進しています。達成度を可視化することで、学生各自の言語能力の向上に資することを目標としています。



英語学習支援センター

いつでも自由に英語に浸ることができる場

研究講義棟 3 階 304 室
☎ 042-330-5416
✉ tufs-elc@tufs.ac.jp

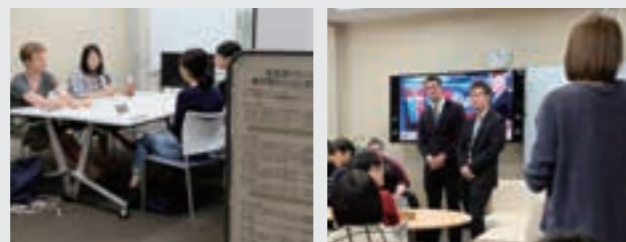
英語学習支援センター（ELC）は、英語の自立学習を支援するため、スピーキング・セッション、多聴・多読プログラム、オンライン学習プログラム等の多様な学習の機会を提供しています。毎年、英語学習の記録と英語力を記した「TUFS 言語パスポート」を学生に発行しています。



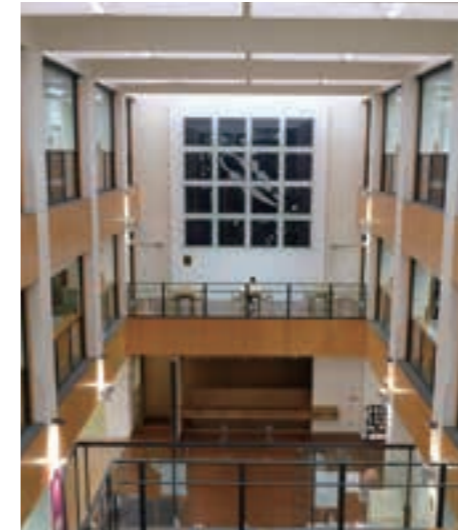
関連施設紹介

English ラウンジ 多言語ラウンジ

研究講義棟の4階にイングリッシュ・ラウンジ（English Lounge）と多言語ラウンジを開室し、だれでも気軽に立ち寄り留学生を交えた多言語の会話を楽しめるスペースとして活用しています。ラウンジでは英語などの学習相談も受け付けています。



附属図書館



世界各地から 280 を超える言語の資料を収集



附属図書館
☎ 042-330-5195（利用に関する問い合わせ）
✉ www-lib@tufs.ac.jp
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/library/

附属図書館は、世界各地から収集した図書を保管し利用に供しています。これらの蔵書は、多言語 OPAC（オンライン蔵書目録）により、原綴り文字でもローマン・アルファベットへの翻字でも検索ができるようになっています。また、基本文献ガイド「TUFS-ビブリオ」では、専門の教員が薦める各分野の基本文献のリストを公開し、地域言語・専攻語の辞書案内や、地域研究の基本文献を紹介しています。オンラインジャーナル、e-Book コレクションも充実しており、世界の学術雑誌や各種のデータベースが利用できます。本学の学習・研究活動を支える「情報基地」として、充実した ICT 環境のもと、多様な学習空間と学習支援サービスを提供しています。

TUFS-ラーニングcommons

附属図書館4階に、主体的な学習のための共有スペースとして、「TUFS-ラーニングcommons」を開室しています。学生同士がグループで議論したり、プレゼンテーションの練習をする場として利用できる空間です。また、学生の学習の悩みや相談に答える

学習相談デスクを設置し、大学院生が「多言語コンシェルジュ」としてレポートやプレゼンテーション、卒論などの悩みにアドバイスをします。

総合情報コラボレーションセンター



安全なネットワーク環境の提供



✉ icc-service@tufs.ac.jp
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/icc/

現代社会では、専用のコンピュータネットワークを備え、常時インターネットへの参加をする情報基盤がなければ、国際的な大学として存続できません。本学では、総合情報コラボレーションセンター（ICC）がこの情報基盤事業を担当しています。ICCでは、キャンパス内全域に有線・無線のコンピュータネットワークを張り巡らし、すべてのユーザの安全なネットワーク参加を実現しています。そのほかに、メールサービスやユーザデータ保存領域の提供など、各種サービスの提供やユーザ向けのポータル機能を備えたWebサービスとして「情報基盤サービスシステム（IIS）」を提供しています。また、本学が日本の正式な学術機関であることを示す tufs.ac.jp というドメイン名を用いたインターネット参加に必要なすべての事業を担っています。

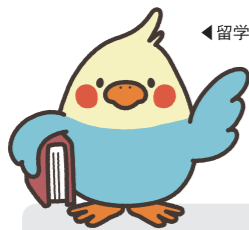
留学支援共同利用センター

留学が決まった学生や留学を考えている学生に適切な情報提供を行うことが留学支援共同利用センターの目的です。

有意義な留学の実現をサポート！
対面での留学相談も実施

本部管理棟 1階
☎ 042-330-5113
✉ ryugakushien@tufs.ac.jp

留学支援共同利用センターは、本学が2014年度文部科学省スーパーグローバル大学創成支援(タイプB:グローバル牽引型)に選定されたことに伴い、大学のグローバル化を支援するために設置されました。留学(派遣・受入)における支援機能を担っています。日本人学生に対しては、留学に関する情報提供、留学プログラムの作成、相手先大学との交渉、学生への留学前・後教育のコーディネート等、留学促進を目的とした支援を行い、日本で学ぶ各国・各地域出身の留学生に対しては、母語によるコミュニケーション・サポートを提供します。本センターは、他大生も支援の対象としています。



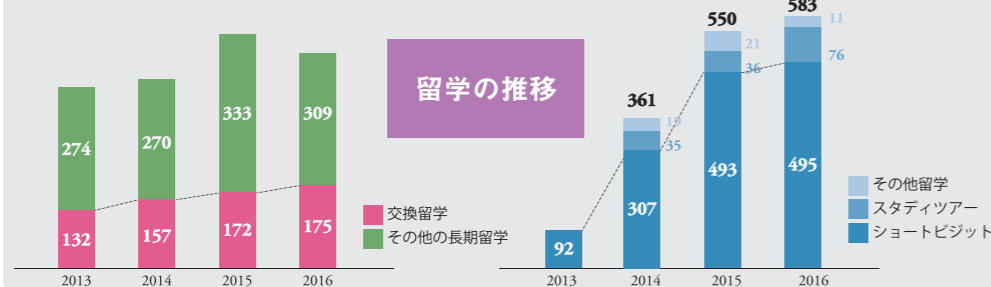
留学のキャラクター、トビタくん

Column

世界に広がる学びの舞台—東京外大から世界へ— 実体験に勝るものなし

世界69カ国・地域の176の大学等研究機関と国際学術交流協定を結んでいます。そのうちの138の大学・機関とは学生交流・派遣に関する協定を結び、学生の往來を保証しています。138の大学・機関は、いずれも各国のトップ大学です。本学では、4学期制における1学期以上の期間の留学を「長期海外留学」として定義しています(交換留学/休学留学/長期インターンシップなど)。夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を「短期海外留学」と定義しています(ショートビジット/スタディツアー/短期インターンシップ/日本語教育インターンシップなど)。

2016年度には、長期留学経験者[※]は782人、短期留学経験者[※]は583人。その合計は1365人で、学生数3858人の35%にあたります。本学は、在学中に1人2回以上留学する「留学200%」を目指しています。※経験者は、2016年度に帰国した人、2016年度に出発した人の両方をさします。



グローバル・キャリア・センター

自らの人生を設計し主体的な進路や職業の選択を行うことを支援するため、グローバル・キャリア・センターを設置しています。

キャリア・アドバイザーによる
きめ細やかなカウンセリング

研究講義棟2階
☎ 042-330-5832
✉ career@tufs.ac.jp



本学では、一人ひとりの学生が、自立した社会人・職業人として生きがいと働きがいと満ちた人生を送ることができるよう、自らの人生を設計し主体的な進路や職業の選択を行うことを支援するため、「グローバル・キャリア・センター」という就職支援センターを設けています。各種ガイダンス、セミナー、講座、インターンシップ、免許・資格取得の支援など、学生一人ひとりが納得のいく進路を決定できるようサポートを提供します。学内でのガイダンス、外交官・国家公務員総合職プログラムの実施などのほか、専任のキャリア・アドバイザーによる個別相談制度を設けています。経験値の高いキャリア・アドバイザーによる進路・就職に関する面談(予約制)を受けることができます。学生一人ひとりと進路選択、就職活動、エントリーシートの書き方、面接対策などについての個別相談に応じています。就職活動をしている学生はもちろん、1年生から利用してキャリアデザインに役立てることができます。

Column

1・2年生からの就業体験で社会とつながり職業意識を育む 「就業体験」科目

就業体験(インターンシップ)といえば、就職活動の前哨戦として3年次の学生が行うことが一般化していますが、一方で、1・2年次から実社会を体験し、職業への意識を育む必要性も叫ばれています。本学では、1・2年生を対象とした「就業体験」科目を設けています。

事前学習・インターンシップ・事後学習を踏まえ、単位も認定されます。2017年度には、経済同友会と連携した「企業インターンシップ」、日本貿易振興機構(JETRO)と連携した「JETROインターンシップ」などの科目が開講されました。卒業後、世界へ羽ばたく卒業生が多

い本学では、海外での就業体験の充実も図るため、国内のみならず、海外での短期・長期インターンシップへの取り組みも本格的に始めました。東京外国語大学限定の短期・長期インターンシッププログラムが、複数の海外企業により用意されています。

経済同友会連携「企業インターンシップ」

経済同友会の会員企業での就業体験。各企業とも非常に質の高いプログラムを提供。
※経済同友会:経団連、商工会議所と並ぶ経済3団体のひとつで、企業のトップが個人の資格で加入。経済政策や社会制度について様々な提言を行っています。

■夏学期
花王(2名)
デュボン(1名)
日本航空(1名)
パナソニック(2名)
三井住友銀行(1名)
三菱ケミカル(1名)
■冬学期
全日本空輸(2名)

日本貿易振興機構連携「JETROインターンシップ」

日本貿易振興機構(JETRO)の国内オフィスにおいて実習。



ボランティア活動スペース

ボランティア活動を学生の重要な学びの機会、教育活動の一環ととらえ、ボランティア活動スペース (VOLAS) を設置し、学生のボランティア活動を支援しています。



(左)学内ボランティアサークル「PeeKABoo」定例会の様子 (右上)国際協力ボランティアに参加した学生の説明 (右下)国際協力ボランティア説明会の様子

ボランティアのきっかけ作りや情報・学びの場の提供などのサポート

研究講義棟 2 階 206 室
 ✉ volas@tufs.ac.jp
 HP : http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer_volas/



本学は、ボランティア活動を学生の重要な学びの機会と考え、教育活動の一環としてとらえています。そして、ボランティア活動を通じて、以下の資質・能力を養うことを方針として、大学として活動を支援します。

1. 主体性の涵養：ボランティア活動は学生の自発的で主体的な活動です。みずから問題を発見し、それに対処し、解決への道筋を見出す能力を養います。
2. 市民社会の一員としての自覚：ボランティア活動を通じて、市民社会の一員としての自覚を育みます。
3. 多様な視点から実践的な知を育む：ボランティア活動は、ニーズに応え、何が必要かを考え、行動することを通じて、学術的知に加えて、実践的知を育みます。
4. 世界の諸問題を自分の社会の問題として考える力：ボランティア活動は、地球(日本の国内・国外)のすべての地域とのつながりを感じることで、地球市民としての自覚を育みます。

以上の理念に基づいて、東京外国語大学はボランティア活動スペース (VOLAS) を設置し、全学的に学生ボランティア活動を支援します。

保健管理センター

学生・職員の健康状態の保持・増進を支援

保健管理センター
 ☎ 042-330-5435
 ✉ hoken-center@tufs.ac.jp

保健管理センターは、学生・職員の健康状態の保持・増進を支援するために設置されています。心身両面の健康を良好な状態に置くことは、充実した学生生活を支える最も重要な基盤を築くことにつながります。これを推進するために、主に次の機能を担っています。

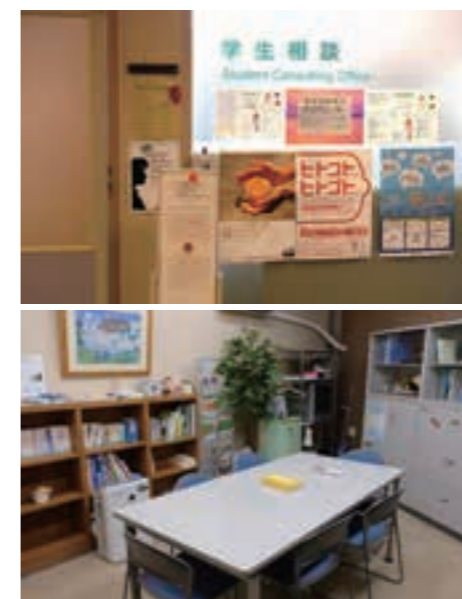
- プライマリケア：診察、健康に関する相談(医師と看護師による援助)
 - ヘルスプロモーション：「疾患の早期発見と早期治療」を目的として各種健康診断を実施
 - メンタルヘルスケア：医師・看護師による精神保健相談など
 - 健康情報発信：医師・看護師による講義、健康情報の提供、『ほけん便り』の発行など
- 本学に在籍する外国人留学生の多様な文化的・保健的背景に合わせた健康支援にも心がけています。

学生相談室

学生の様々な疑問や悩みを解決し、充実した学生生活を送れるよう支援

研究講義棟 1 階
 北口付近
 ☎ 042-330-5560

学生がさまざまな疑問や悩みを解決し、充実した学生生活を送ることができるよう援助・助言するための学生相談窓口が設置されています。授業の履修方法など修学上の問題から、進路、心の健康、自分の性格や行動、対人関係、日常生活の問題まで、ありとあらゆる相談を受け付けています。また、各種ワークショップを開催し、学生間の交流を促進する活動もしています。持ち込まれた相談内容については、カウンセラー、教員等が、その内容、程度を問わず、親身になって相談に当たります。相談者のプライバシーを守り、安心して相談ができる体制が整っています。相談の内容はさまざまです。将来や生き方について不安を感じる／友人ができない／対人、異性関係で悩んでいる／何もやる気がしない／サークル活動やアルバイトで悩んでいる／先輩や教員とトラブルがある／ハラスメントを受けた など



社会の中の大学

オープンアカデミー
社会・国際貢献情報センター
多言語・多文化教育研究センター
TUFS Cinema
大学文書館
東京外国語大学出版会
大学間連携
高大連携

TUFS オープンアカデミー

東京外国語大学では、開かれた学術的な生涯学習などの場として、アカデミー講座（公開講座）と一般聴講生制度を開設しています。

アカデミー講座

TUFS オープンアカデミーは市民に開かれた学術的な生涯学習の場として開設されています。東京外国語大学の教育理念である「21世紀地球社会と対話し行動する」をモットーに、グローバル時代に必要な知と教養の獲得をサポートします。アカデミー講座は一般の方を対象に開講する公開講座です。

2017年度春学期開講講座

語学講座 30 言語 88 講座	アムハラ語 アラビア語 エジプト方言 イタリア語 イディッシュ語 ウクライナ語 ウルドゥー語 エスペラント	オランダ語 広東語 カンボジア語 キルギス語 スウェーデン語 スペイン語 スワヒリ語 タイ語	チベット語 朝鮮語 ドイツ語 ハンガリー語 東アルメニア語 ヒンディー語 フランス語 ブルガリア語	ベトナム語 ベンガル語 ポーランド語 ポルトガル語 リトアニア語 ルーマニア語 ロシア語
教養講座 10 講座	音声学 古教会スラブ語とその周辺 音声学に基づいた発音教育 ヨーロッパを知る歴史散歩 メロディー・映像から垣間見るロシア人・スラブ人の文化と言語	ロシアー世界遺産都市モスクワを旅する ポーランド戦後史と映画 世界言語紀行 多言語社会におけるコミュニケーションを考える あなたも外交官 一日生活の簡単英語・中国語国際交流入門		
特別講座 2 講座	にほんご指導者養成プログラム（入門、専門）			



Check! <http://www.tufs.ac.jp/common/open-academy/>

さらに詳しい情報は、東京外国語大学オープンアカデミーのホームページもご参照ください。



一般聴講生制度

本学で正規学生に開講されている授業科目の一部を、聴講*できる制度です。学生と一緒に勉強することで、キャンパスライフを経験できる制度です。

*「聴講」とは：本来、本学の正規学生を対象として開講している授業を、広く一般の方々に開放し、聴講していただくものです。「聴講」の中には、授業内または試験期間中に実施される試験を受けたり課題をこなしたりすることは含まれません。

Check! さらに詳しい情報は、東京外国語大学一般聴講生のホームページもご参照ください。
<http://www.tufs.ac.jp/common/open-academy/system/>



多言語・多文化教育研究センター

研究講義棟 3階 319室
 ☎ 042-330-5441 (代表)
 ✉ tc@tufs.ac.jp
 HP: <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>



グローバル化にともなって地球規模での人の移動がますます激しくなる中、日本においても多くの外国人が暮らすようになり、多言語・多文化が進んでいます。本センターは、多言語・多文化社会の抱える課題解決に寄与することを目標とし、異なる言語、習慣、文化を持つ人びとが安心して暮らすことのできる、差別や偏見、排除のない多言語・多文化社会の実現に向けて積極的に活動しています。

社会・国際貢献情報センター

研究講義棟 3階 319室
 ☎ 042-330-5823
 ✉ icsic@tufs.ac.jp
 HP: <http://www.tufs.ac.jp/icsic/>



「世界知」を社会に活かす！をモットーに、社会・国際貢献情報センター（ICSIC）を設置しています。本学が教育研究活動を通じて得た世界諸地域の「世界知」の集積と整理を行い、発信の機能を果たします。「世界知」活用のハブとして、日本のグローバル化の大きな力となることを目指しています。ウェブサイトを通じた情報発信のほか、定期的に地域講演会などを開催しています。

TUFS Cinema

☎ 042-330-5150
 ✉ soumu-koho@tufs.ac.jp
 HP: <http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/cinema/>



本学では、大使館・映画配給会社などの関係機関との連携・協力により世界の諸言語による映画、演劇上映および講演会等を実施する「TUFS Cinema」プロジェクトを2015年度春に開始しました。世界諸地域の映画の上映会やトークセッションを通して、当該地域の社会・歴史・文化などの理解を深めることを目的に実施しています。

大学文書館

大学の教育・研究活動に関わる資料を継続的に収集・整理・保存し、学内外の方が資料を利用できる環境を整備します。



1. 附属図書館1階ギャラリーにて所蔵資料を用いた展示を実施しています。本学の過去から現在までの歴史の変遷や過去の出来事を紹介しています。2. 大学文書館作業室兼閲覧室。3. 大学文書館HPにて所蔵資料の一部を紹介しています。

過去の歴史的資料とともに、現在の大学の活動を伝える

作業室兼閲覧室：研究講義棟6階600号室
展示スペース：附属図書館1階
☎ 042-330-5842
✉ tufsarchives@tufs.ac.jp
HP: <http://www.tufs.ac.jp/common/archives/>



東京外国語大学の歴史資料保存のために、2012年4月に設置しました。大学文書館の主な役割は大学の教育・研究活動に関わる資料を継続的に収集・整理・保存し、学内外の方が資料を利用できる環境を整備することです。現在、大学文書館には大学史編纂事業の際に収集された資料群や、部活動団体等から寄贈された資料群が保管され、整理作業が進められています。また今後、将来に渡り大学の歴史を伝え遺してゆくべく、過去の歴史的資料とともに、現在の大学の活動を未来に伝える資料の収集・保存活動を実施してゆきます。また大学文書館では収集した資料群の紹介を兼ね、毎年所蔵資料群を中心とした企画展を年4回程度開催しております。附属図書館1階の展示場にはタッチパネルを用いたデジタル展示「Digital Archives」も整備され、過去に開催された企画展の内容も含め紹介しています。

東京外国語大学出版会

情報を蓄積し、伝達するだけでなく、それを形ある“書物”として丁寧に作りあげ、知性にたいする敬愛とともに次世代にしっかりと受け渡していきます。

伊東剛史 後藤はる美 編 『痛みと感情のイギリス史』

【2017年3月31日発売】
四六判 上製
368頁
定価：本体2600円
ISBN 978-4-904575-59-8
C0022

歴史から
浮かび上がる
〈感情〉の共同体



痛みは普遍的なのか——
生と痛みが絡まり合う感情の諸相を、イギリス史を舞台に描き出す。

17世紀から20世紀のイギリスをフィールドとして、神経医学の発達、貧者の救済、聖職者の処刑、宗教改革期の病、魔女裁判、夫婦間の虐待訴訟、動物の生体解剖などを題材に、6名の研究者が史料に残された〈生きられた痛み〉を照らし出し、感情を歴史学の視点から考えるための視座を開く。

青山弘之 スライマーン・アラールディーン 著 『大学のアラビア語 初級表現』

【2017年3月31日発売】
B5判・並製 255頁 定価：本体3000円+税
ISBN 978-4-904575-60-4 C3087



本書は『大学のアラビア語』シリーズの1冊です。『大学のアラビア語 詳解文法』において具体的かつ体系的に解説されているアラビア語の文法項目に沿って、アラビア語の表現能力を身につけるための教本です。全13章からなり、各章は例文・解説・文法の復習・練習問題で構成され、アラビア語の文法事項を復習しつつ、初級レベルの表現能力を習得できるようになっています。

初級レベルの
学生のための
日本語教科書



留学生日本語教育センター 編著 『大学の日本語 初級 ともだち Vol.1』

【2017年3月31日発売】
B5判・並製 280頁 定価：本体2500円+税
ISBN 978-4-904575-61-1 C3881

本書は、大学等の日本語教育機関で学ぶ初級レベルの学生のための日本語教科書です。大学などでの生活に密着した多様なタスク、異文化理解タスクをすることにより、中級・上級日本語につなげるための初級文型・語彙を学習しながら、「自己を発信する力」「他者と伝え合う力」を総合的に身につけます。初級はVol. 1とVol. 2の2冊からなり、Vol. 1は初級前半、Vol. 2は初級後半のレベルとなっています。

本学の学術活動の成果を 幅広い企画の出版活動で社会に発信

アゴラ・グローバル2階
☎ 042-330-5559
✉ tufspub@tufs.ac.jp
HP: <http://www.tufs.ac.jp/blog/tufspub/>



東京外国語大学出版会では、歴史・言語・文化・地域研究などのジャンルの学術的な著作から、教養書、人文・文芸書などの翻訳、また語学をはじめとする教科書に至るまで、幅広い企画の出版活動に取り組んでいます。世界諸地域の言語・文化・社会に関する教育と研究を通じて本学の歴史の中で蓄積された成果を、広く社会に発信し、さらなる教育・研究活動の振興と、地球社会との協働を促進していくための知識の普及をめざしています。

社会の中の大学

Partner Institutions

大学間連携

本学では、教育研究交流・学生交流、単位互換などを目的に、個性ある様々な大学と教育研究連携を締結しています。

■ 四大学連合

東京医科歯科大学、東京工業大学、一橋大学、本学の4大学で結成している連合です。それぞれ独立を保ちつつ連携を図ることで、これまでの高等教育で達成できなかった新しい人材の育成と、学際領域・複合領域の研究教育のさらなる推進を図ることを目的としています。

■ 全国外大連合

全国の7つの外国語大学(関西外国語大学、神田外語大学、京都外国語大学、神戸市外国語大学、名古屋外国語大学、長崎外国語大学、本学)で結成している連合です。21世紀グローバル社会にふさわしい人材の育成のために連携を図ることを目的としています。

■ 西東京三大学連携

電気通信大学、東京農工大学、本学の西東京地区3大学で、文理協働型のグローバル人材育成プログラムを行います。人文社会科学・理工学・農学のそれぞれの専門性と同時に分野横断の協働の視点を持つ実践型グローバル人材を育成します。

■ 多摩アカデミックコンソーシアム (TAC)

多摩地区6大学(国立音楽大学、国際基督教大学、津田塾大学、東京経済大学、武蔵野美術大学、本学)で結成しているコンソーシアムです。それぞれの特色ある専門分野を生かした相互協力、単位互換制度や図書館の相互利用、学生・教職員の交流などを行っています。

■ 多摩地区5大学単位互換制度

多摩地区5国立大学(東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学、一橋大学、本学)間の相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的としています。本制度により、受け入れ大学で授業科目を履修し、授与された単位は、本学において修得単位として認定しています。

■ EUIJ 東京コンソーシアム

国際基督教大学、津田塾大学、一橋大学、本学の4大学で結成しているコンソーシアムです。日本における欧州連合(EU)研究のための学術拠点の一つです。4大学間でEU関係授業科目の単位互換や、イタリア(フィレンツェ市)にある欧州大学院との学術交流を行っています。

■ 教育研究交流

本学は、17大学および4機関と包括協定を締結しています。(2017年5月1日現在)

創価大学	長岡技術科学大学	国際基督教大学	東京女子大学
日本貿易振興機構	日本体育大学	日本貿易振興機構アジア経済研究所	首都大学東京
国際医療福祉大学	電気通信大学	名古屋外国語大学	中央大学
国際交流基金	神田外語大学	神戸市外国語大学	
清泉女子大学	東京農工大学	東京藝術大学	
人間文化研究機構	津田塾大学	お茶の水女子大学	

社会の中の大学

Partner High Schools

高大連携

本学と連携協定を締結している学校との間では、本学の授業体験、留学生と高大連携校等の生徒の交流などを行っています。

■ 高大連携

高大連携校等のうち、2014年度より開始した文部科学省スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業の指定を受けた学校については、連携を通じて、同事業の支援を行っています。2017年5月1日現在、高大連携校等は以下のとおりです。

高大連携校等名	締結年月	SGH スーパーグローバルハイスクール
吉祥女子中学・高等学校	2017年4月	
東京都立南多摩中等教育学校	2017年3月	
長野県上田高等学校	2016年12月	○
千葉県立船橋高等学校	2015年7月	
石川県立金沢泉丘高等学校	2015年6月	○
晃華学園中学校・高等学校	2015年3月	
東京学芸大学附属国際中等教育学校	2015年3月	○
東京都立青山高等学校	2015年3月	
東京都立立川高等学校	2015年3月	
東京都立西高等学校	2015年3月	
東京都立国立高等学校	2015年3月	
国際基督教大学高等学校	2015年3月	○
東京都立戸山高等学校	2015年3月	
学校法人渋谷教育学園	2013年7月	○
千葉県立東葛飾高等学校	2013年6月	
東京都立立川国際中等教育学校	2013年6月	
東京都立国分寺高等学校	2013年6月	
東京都立八王子東高等学校	2010年5月	
神奈川県立横浜国際高等学校	2010年3月	○

TUFS データ集

150余年の長きにわたる 外国学の教育と研究



本学の歴史はたいへん古く、その起源は江戸幕府により1857年に開校された蕃書調所まで遡ることができます。日本における外国研究の歴史は本学の祖となる官営学校によって始まったといっても過言ではありません。しかしながら、近代的な教育機関としての本学の創立年をはっきりしめすことは容易ではありません。なぜなら、本学は、日本の近代教育の黎明期につくられ、紆余曲折をへて、現在、東京大学・一橋大学などになっていった明治時代の諸教育機関と共通の根をもつものだからです。

明治2年に作られた英語・仏語の2学科の「開成学校」(現、東京大学)をへて、明治6年(1873年)に発足した東京外国語学校は、近代的な学校組織としては本学の「祖」となるものです(英、独、仏、ロシア、中国語の5語学科)。しかしながら、この学校は1887年に、他の学校と合併して東京商業学校(のちの高等商業学校。現、一橋大学)となり、外国語教育の独立した教育機関はいったんわが国から姿を消しました。

しかし、明治30年(1897年)に、高等商業学校に附属する機関として、外国語学校が再興されました。このため、本学としては、自分たちの創設を1897年と考えています。つづく、明治32年(1899年)、高等商業学校附属外国語学校は、東京外国語学校と改称され、高等商業学校から分離されました。以後、東京外国

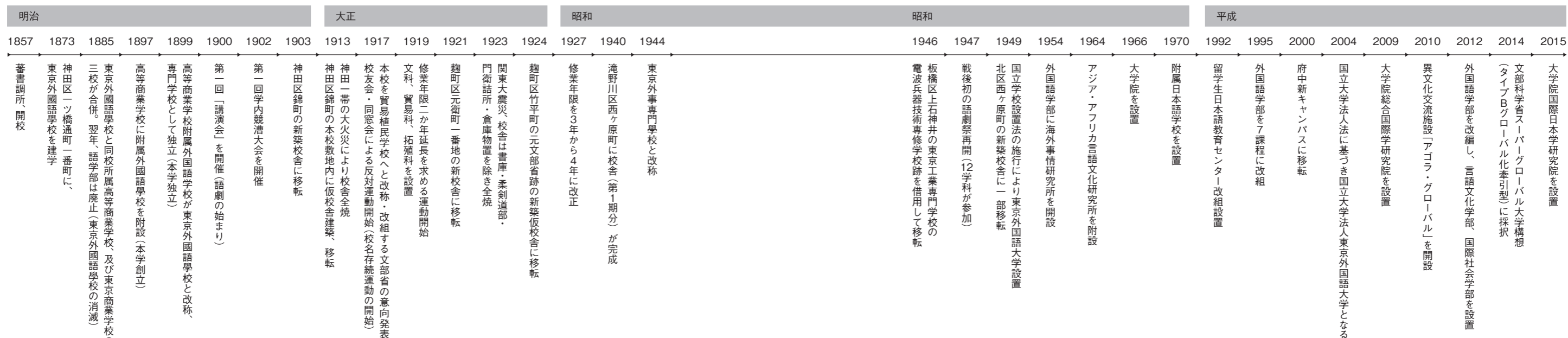
語学校は、名前を変えながらも、独立した国立の教育機関としての現在までつづく歴史を歩んでいます。

以上の歴史を踏まえ、本学は、1873年を建学の年、1897年を創立の年、1899年を独立の年、と呼んでいます。

本学は第二次世界大戦後の1949年、新制大学として発足しました。新制大学発足当初は12学科からなる外国語学部のみでしたが、じょじょに学科や部局の数をふやし、学部のほかに、博士課程を持つ大学院地域文化研究科、全国共同利用研究所であるアジア・アフリカ言語文化研究所、教育関係共同利用拠点である留学生日本語教育センターからなる大学へと発展しました。また、2012年には学部改組が行われ、言語文化学部と国際社会学部という2つの学部が誕生しました。

キャンパスは、当初は、東京の神田錦町に位置していましたが、火災や地震、戦災により何度も移転を余儀なくされましたが、1940年以後は、主に、東京北西部、北区西ヶ原の校舎を利用してきました。2000年、本学は東京西部に位置する府中市の現キャンパスに移転し、近代的な設備と高度な情報環境のもとでの、教育・研究を実現しました。

こうした100年を超える歴史をふまえ、東京外国語大学は21世紀の日本における国際的な学問研究、学術交流の拠点のひとつとして重要な役割を果たし続けています。



大学歌について

大学歌の制定：1957(昭和32)年、大学創立60周年の記念行事の一環として、旧東京外国語学校校歌に代わる大学歌制定の提案がなされ、学生公募の上、ロシア語学科の柴原徳光さん(1962(昭和37)年卒)の作品が選ばれた。これを本学教授でもあり詩人としても著名であった安藤一郎氏(1928(昭和3)年英米科卒)が加筆し正式な歌詞となった。作曲は作曲家の清瀬保二氏に委嘱し、大学歌が完成した。

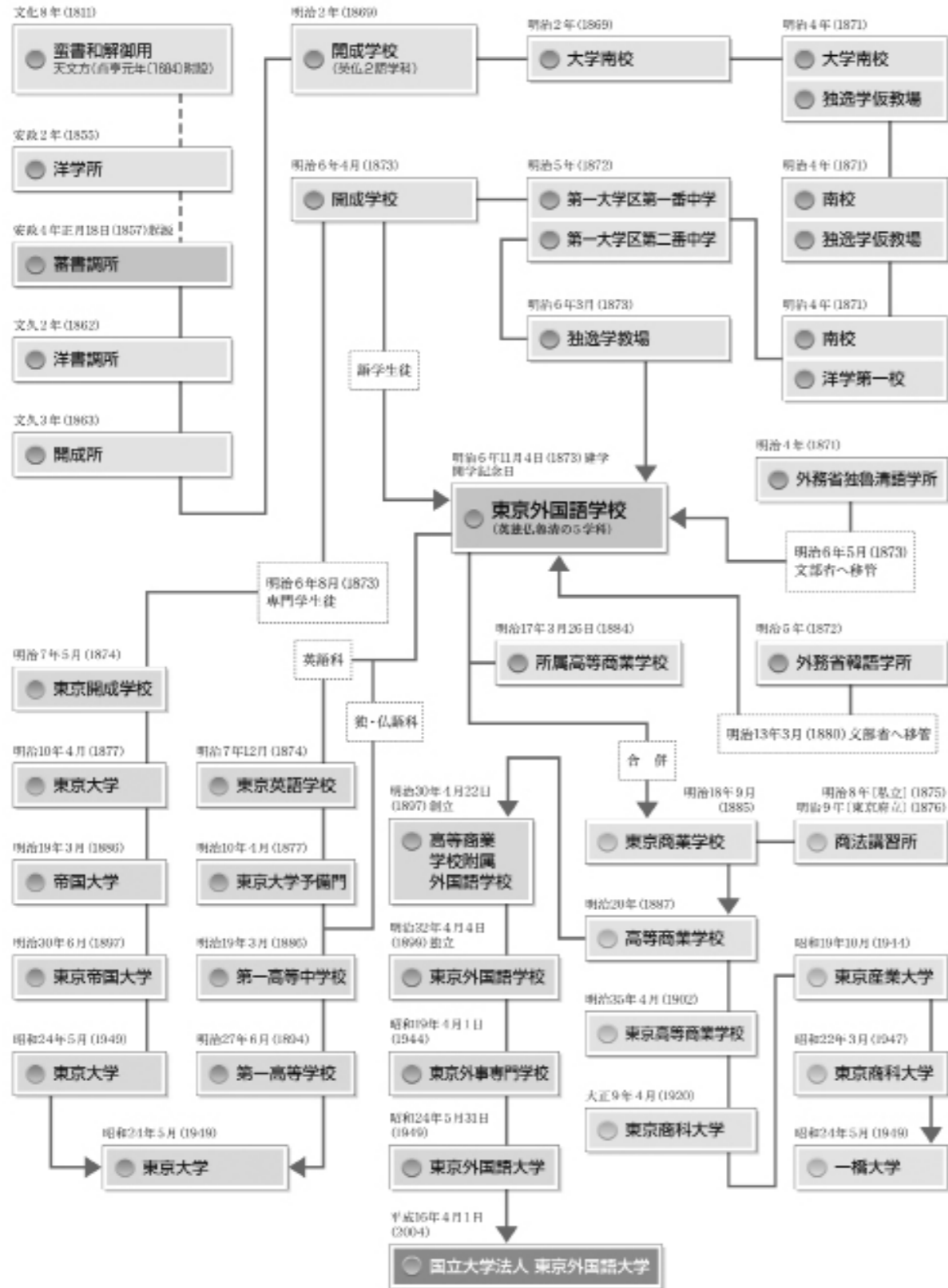
1. 天地のひらく あけぼのに プロメテウスの 炬(ひ)のごとく
いざや掲げむ 燃ゆる理想を 大いなる視野 ひらけゆく
ああ 東京外語大 われらの行手 永久(とわ)に輝く
2. 若き精神(こころ)を 相結び 言葉の園(その)に わけ入りて
探り賞(め)でなむ 真理の花を 世界の同胞(はらから) 一(いつ)にして
ああ 東京外語大 われらの歩み 平和に満つる
3. 長き歴史をいしげずに 日々新たなる 力もて
受けつぎ築く 文化の堂宇 東亜の声を 伝えつつ
ああ 東京外語大 われらの誇 さらに加えむ

校章について

由来：1897(明治30)年に東京高等商業学校附属外国語学校として創立された本学が、1899(明治32)年、東京外国語学校として独立する際に、神田乃武校長をはじめ各教官協議の結果、この徽章を制定した。炬火(たいまつ)は、「光は世を照らす」ことを意味し、Lはラテン語のLinguaの頭文字をとった。左右の羽翼については、独立当初に教授した8語学科を意味しているといわれている。



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies



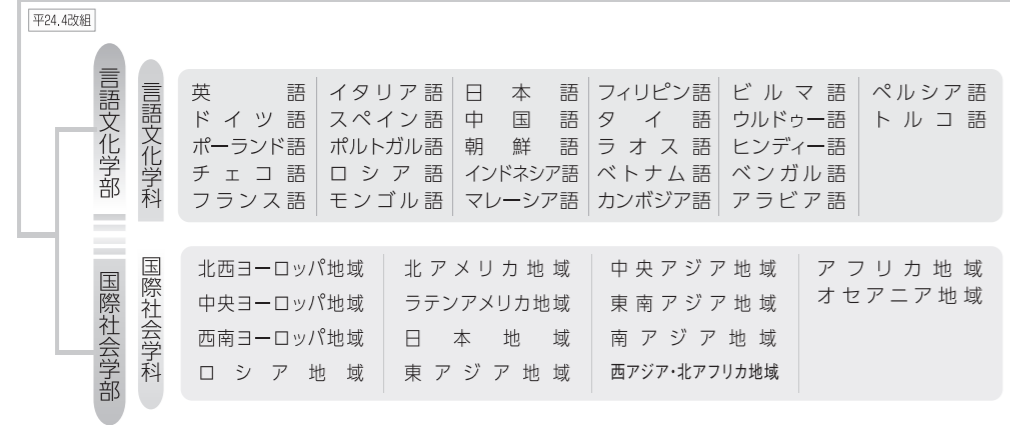
明治
大正
昭和
平成

- 6(1873)・11・4 ▶ 東京外国語学校(官立)、第一大区区東京第四大区二小区一ツ橋通町一帯地に開設。5学科(英・仏・独・露・清語)を設置
- 7(1874)・12・24 ▶ 英語学科が東京英語学校設置に伴い同校に移行、よって4学科(仏・独・露・清語)となる
- 13(1880)・3 ▶ 朝鮮語学科設置
- 17(1884)・3・25 ▶ 東京外国語学校に附属高等商業学校を設置
- 18(1885)・9・14 ▶ 仏・独語学科が東京大学下橋門に移行、よって3学科(露・清・朝鮮語)となる
- 9・22 ▶ 東京外国語学校及び同校附属高等商業学校と東京高等商業学校が東京高等商業学校として合併
- 29(1896)・1 ▶ 第九帝國議會において衆議院及び貴族院の両院が外国語学校の開設を建議
- 30(1897)・4・22 ▶ 高等商業学校に附属外国語学校附設7学科(英・仏・独・露・清・朝鮮)を設置。修業年限3年
- 32(1898)・4・4 ▶ 高等商業学校附属外国語学校が東京外国語学校(神田錦町3丁目14番地)と改称されるとともに、文部省直轄3官立専門学校の一つとして創立
- 伊藤学務を設置し、8学科となる
- 44(1911)・1 ▶ 新たに5学科(英・露・清・獨・法、ヒンドスタン、タミル語)を設置し13学科となる
- 朝鮮語学科を朝鮮語学科に改称
- 2(1913)・2・20 ▶ 明治大火により校舎全焼
- 2・24 ▶ 文部省移転の旨が東京高等商業学校分設局の一部を借用し、授業開始
- 9・5 ▶ 本校敷地内に仮校舎を営業
- 清語学科を支那語学科に改称
- 5(1916)・1・17 ▶ 漢語学科を設置し、14学科となる
- 8(1919)・9・4 ▶ 各学科の名称を部に改正。英語を文科、貿易科、拓殖科に分ける
- 10(1921)・4・10 ▶ 麹町区元麹町一帯地の新校舎に移転
- 12(1923)・9・1 ▶ 関東大震災により附属建物を除き全焼
- 11・1 ▶ 千代田市→谷の部練馬区官立学校の一角を借り授業開始
- 13(1924)・3・3 ▶ 麹町区竹竿町一帯地の元文部省跡の新築校舎に移転
- 2(1927)・3・28 ▶ 朝鮮語部廃止により13部となる。修業年限4年に改正
- 15(1940)・7・24 ▶ 池野川区西→都野の元海軍糧食部跡に本造校舎を新築
- 16(1941)・5・21 ▶ 漢語部を東洋部に変更、漢語部を東洋部に変更
- 19(1944)・4・26 ▶ 東京外事専門学校と改称。修業年限3年に改正
- 第一部(支那、蒙古、タイ、マライ、インド、ビルマ、フィリピン、イスパニヤ、ポルトガルの9科)及び第二部(ドイツ、フランス、ロシア、イタリヤ、英米の5科)を設置
- 漢科として専修科(修業年限2年)及び通修科(修業年限1年)を設置
- 5・31 ▶ 麹町区竹竿町一帯地から豊原を境と池野川区西→都野の新築校舎に移転
- 20(1945)・4・13 ▶ 戦災により校舎等全焼
- 5 ▶ 戦災により校舎等全焼のため下谷区上野公園東京美術学校、圖書館講義所、美術研究所内に移転。7月から授業開始
- 21(1946)・6・1 ▶ 板橋区上石神井1丁目216番地の聖山中学校校舎の一部を借用
- 7・22 ▶ 支那科を中国科に、タイ科をシヤム科に改正し、支那語を中国語に、タイ語をシヤム語に改称
- 8・1 ▶ 板橋区上石神井1丁目219番地の東京工業専門学校校舎の電設局長佐藤専修学校跡を借用して移転し、9月から授業開始
- 8・16 ▶ マライ科をインドネシア科に、ツイリピン科をフィリピン科に改称
- 24(1949)・3・23 ▶ 北区西→都野の校地に戦災後土木造校舎を新築
- 5・31 ▶ 国立学校設置法の施行により東京外国語大学設置(東京外事専門学校を包括して設置)。修業年限4年
- 6・1 ▶ 12学科(英米、フランス、ドイツ、ロシア、イタリヤ、イスパニヤ、ポルトガル、中国、蒙古、インド、シヤム、シヤム)を設置
- 8・30 ▶ 元プツジ駐米特命全權大使徳田健蔵、初代学長に就任
- 26(1951)・3・31 ▶ 東京外事専門学校を廃止
- 29(1954)・7・5 ▶ 外国語学部を海外事情研究所を開設
- 9 ▶ 留学生別科を設置。修業年限1年
- 30(1955)・12・16 ▶ 初めての選挙により教授岩崎民平が第二代学長に就任
- 31(1956)・3・31 ▶ 専攻科の設置。修業年限1年
- 専攻課程「英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語、イスパニヤ語、ポルトガル語、中国語、蒙古語、クルド語、ヒンディー語、インドネシア語、シヤム語」の13専攻
- 34(1959)・7・1 ▶ 外国語学部言語学研究所を開設
- 35(1960)・3 ▶ 留学生別科を廃止
- 4 ▶ 留学生課程を設置。修業年限3年
- 36(1961)・4 ▶ 学科を科に改称。イスパニヤ科、ポルトガル科、蒙古科、インド科、シヤム科をそれぞれスペイン科、ポルトガル・ブラジル科、モンゴル科、インド・パキスタン科、タイ科に改称。アフリカ科を設置
- 29(1964)・4 ▶ 科を語学科に改称
- タイ科をインドシナ語学科に改称
- アジア・アフリカ語学文化研究所を設置
- 41(1966)・4 ▶ 大学院外国語学研究所修士課程を設置
- 43(1968)・4 ▶ 特設日本語科を設置
- 45(1970)・4 ▶ 北区西→都野に附属日本語学校を設置
- 46(1971)・3 ▶ 府中市住吉町5丁目10番地1号の新校舎に附属日本語学校移転
- 46(1971)・4 ▶ 田沼調査部修繕施設を開校
- 47(1972)・3 ▶ 留学生課程を廃止
- 50(1975)・4 ▶ 大学院外国語学研究所修士課程に日本語専攻を設置
- 52(1977)・4 ▶ 朝鮮語学科を設置
- 大学院地域文化研究科修士課程を設置

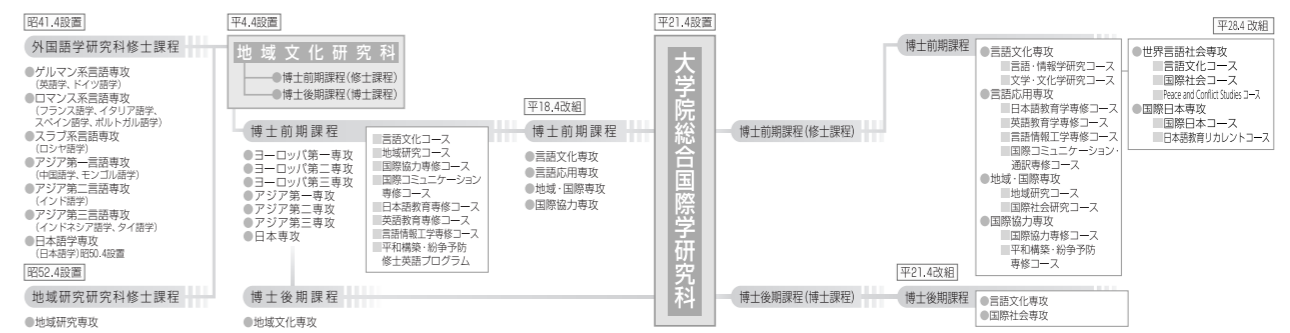
- 55(1980)・4・1 ▶ ベルシア語学科を設置
- 58(1984)・4・1 ▶ インドネシア語学科をインドネシア・マレーシア語学科に改称
- 60(1985)・4・1 ▶ 特設日本語科を日本語学科に改称
- 国際交流センターを開設
- 61(1986)・4・1 ▶ 附属日本語学校に留学生教育教材開発センターを設置
- 3(1991)・4・1 ▶ ロシア語学科をロシア・東欧語学科に改称
- 4(1992)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科修士課程(情報・地理)を設置。外国語学研究所修士課程及び地域文化研究科修士課程を地域文化研究科に統合
- インドネシア・マレーシア語学科とインドシナ語学科を東南アジア語学科に改称
- 4・10 ▶ 附属日本語学校と留学生教育教材開発センターを留学生日本語教育センターに改称
- 5(1993)・4・1 ▶ アフリカ語学科とベルシア語学科を東洋語学科に改称
- 7(1995)・4・1 ▶ 外国語学部を7専攻(欧米第一、欧米第二、ロシア・東欧、東アジア、東南アジア、南・西アジア、日本)3大講席(言語・情報、総合文化、地域・国際)に改組
- 8(1996)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に国際文化講座(博士課程)を設置
- 外国語学部を総合文化研究所を開設
- 9(1997)・4・1 ▶ アジア・アフリカ語学文化研究所に情報資源利用研究センターを設置
- 4・22 ▶ 創立百周年(建学百二十四年)記念式典挙行政務総務センターを設置
- 10(1998)・10・1 ▶ ISPTTIPS(東京外国語大学国際教育プログラム)開設
- 11(1999)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「国際協力講座」(博士課程)を設置
- 11・4 ▶ 創立百周年(建学百二十六年)記念式典挙行政「東京外国語大学史」(原下ナルド・キーン氏(コロンビア大学名誉教授)に贈呈)名誉博士学位を授与
- 12(2000)・4・1 ▶ 留学生(2人)、外国語学部が設置される
- 大学院地域文化研究科に最初の連携講座(連携先・日本銀行金融研究所)を設置
- 8・11 ▶ 府中キャンパスに移転(10月2日より新キャンパスにて授業開始)
- 13(2001)・3・15 ▶ 東京医科大学大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学間において「4大学総合学際」協定
- 4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に連携講座(連携先・国際協力事業団)を設置
- 5・10 ▶ 東京外国語大学本郷サテライト開設
- 14(2002)・2・1 ▶ アジア・アフリカ語学文化研究所が府中キャンパスに移転
- 4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「対照言語学情報講座」(博士課程)を設置
- 外国語学部附属協定の海外事情研究所、語学研究所、総合文化研究所を廃止し、新たに学内附属施設として海外事情研究所、語学研究所、総合文化研究所を開設
- 15(2003)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に連携講座(連携先・日本貿易振興機構アジア経済研究所)を設置
- 16(2004)・2・23 ▶ 留学生日本語教育センターが府中キャンパスに移転
- 4・1 ▶ 国立大学法人法に基づき国立大学法人東京外国語大学設立
- 大学院地域文化研究科に「平和構築・紛争予防講座」(博士課程)を設置
- 16(2004)・10・1 ▶ 学内附属施設として国際法地法研究センターを設置
- 17(2006)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「言語教育学講座」(博士課程)を設置
- 9・1 ▶ 国際学術情報本部を設置
- 10(2006)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科修士前期課程の全専攻を、言語文化専攻、言語応用専攻、地域・国際専攻、国際協力専攻に改組
- 情報情報センターを廃止し、総合情報コアポレーションセンターを設置
- 学内附属施設として多言語・多文化教育研究センターを設置
- 19(2007)・3・7 ▶ アジア・アフリカ語学文化研究所「教育コンソーシアム」設立
- 4・1 ▶ 学内附属施設として地域社会先端教育センターを設置
- 20(2008)・10・1 ▶ 東京外国語大学出版会設立
- 21(2009)・4・1 ▶ 総合国際学研究所を設置し、博士後期課程の地域文化専攻を言語文化専攻と国際社会専攻に改組
- 国際日本研究センターを設置
- 世界言語社会教育センターを設置
- 22(2010)・4・1 ▶ 異文化支援施設「アゴラ・グローバル」を開設
- ▶ アジア・アフリカ語学文化研究所が共同利用・共同研究拠点に認定
- 23(2011)・4・1 ▶ 学内附属施設として国際関係研究所を開設
- ▶ 学術情報基盤を改組
- ▶ グローバルキャリアセンター設置
- 24(2012)・4・1 ▶ 外国語学部を改編し、言語文化学部、国際社会学部を設置
- ▶ 人文書庫を設置
- 7・31 ▶ 留学生日本語教育センターが教育関係共同利用拠点に認定
- 25(2013)・4・1 ▶ 高等教育支援基盤、総合研究推進基盤、社会・国際貢献基盤、学生支援基盤を設置
- ▶ 学内附属施設として大学連携センター、教育情報支援センターを設置
- ▶ 国際交流センター3号館を開設
- ▶ 総合国際学研究所を改組
- ▶ 経営情報情報本部を設置
- 10・1 ▶ 多様化アカデミックコンソーシアム(TrAC)に加盟
- 26(2014)・9・26 ▶ 言語科学省スーパーグローバル大学構想(タイプBグローバル)認定型型に本学構想が採択
- 27(2015)・4・1 ▶ 国際日本語学研究所を開設
- ▶ 留学生支援共同利用センター、現代イノベーションセンター(2016.4)アジア研究センターに改名)を設置
- 28(2016)・4・1 ▶ 大学文庫館が4号館立文庫館等施設整備に認定
- 29(2017)・4・1 ▶ 現代アフリカ地域研究センターを設置
- ▶ 博士前期課程を世界言語社会専攻と国際日本専攻に改組

変遷

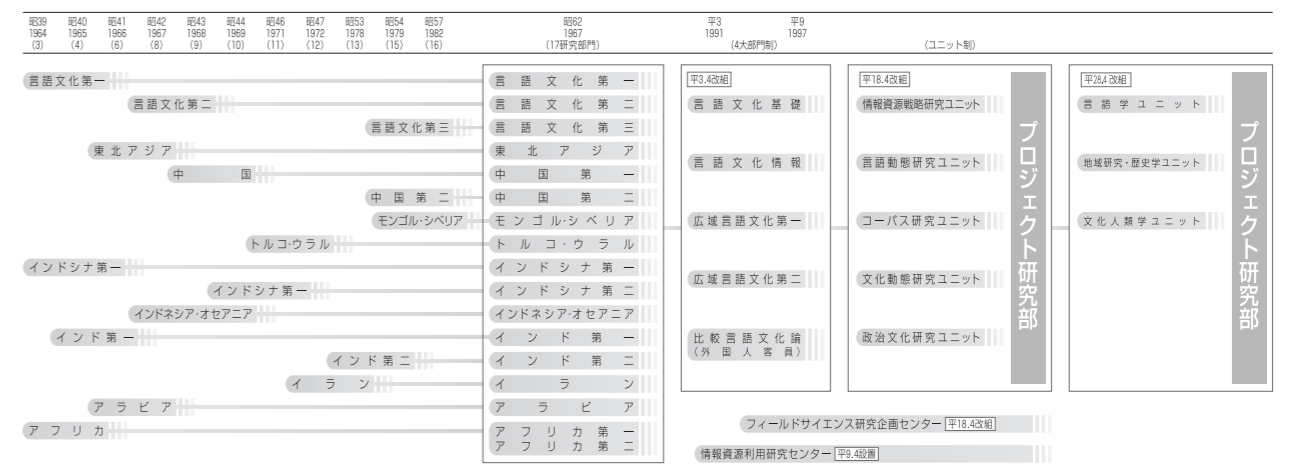
学部



大学院



アジア・アフリカ言語文化研究所



留学生日本語教育センター



教職員・役職者

歴代の校長・学長

校 長			学 長		
【東京外国語学校】			【東京外国語大学】		
神田 乃武	1899年 4月		井手 義行 <small>(学長事務取扱)</small>	1949年 5月	
上田 万年 <small>(校長事務取扱)</small>	1900年 4月		澤田 節蔵	1949年 8月	
高橋順次郎	1900年 11月		岩崎 民平	1955年 12月	
村上直次郎	1908年 7月		小川 芳男	1961年 12月	
茨木清次郎	1918年 9月		鐘ヶ江信光 <small>(学長事務取扱)</small>	1969年 4月	
長屋 順耳	1919年 4月		鐘ヶ江信光	1971年 4月	
戸沢 正保	1932年 8月		坂本 是忠	1975年 4月	
石井 忠純	1938年 12月		鈴木 幸壽 <small>(学長事務取扱)</small>	1981年 9月	
大畑 文七	1943年 9月		鈴木 幸壽	1981年 12月	
			長 幸男	1985年 12月	
【東京外事専門学校】			原 卓也	1989年 9月	
大畑 文七	1944年 4月		中嶋 嶺雄	1995年 9月	
井手 義行	1945年 7月		池端 雪浦	2001年 9月	
			亀山 郁夫	2007年 9月	
			立石 博高	2013年 4月	

役職員

(2017年5月1日現在)

▶ 役員会	
学 長	立石 博高
理事・副学長(総括、教育、広報等担当)	林 佳世子
理事・副学長(人事、研究、機関連携等担当)	岩崎 稔
理事(財務、施設、IR、情報マネジメント等担当)・事務局長	匂坂 克久
▶ 副学長(理事兼務者除く)	
副学長(国際交流等担当)	伊東 祐郎
副学長(学生支援、アラムナイ、社会貢献等担当)	武田 千香
▶ 監 事	
監事(非常勤)	寺前 隆
監事(非常勤)	桑原 道夫
▶ 学長補佐	
学長特別補佐(点検評価、IR等担当)	蒲生 慶一
学長特別補佐(市民講座、アラムナイ、基金等担当)	佐野 洋
学長特別補佐(高大連携、IR等担当)	藤縄 康弘
学長特別補佐(留学生支援、男女共同参画、新学部準備等担当)	伊集院 郁子
学長特命補佐(基金、アラムナイ担当)	和幸 弘子
学長特命補佐(基金、アラムナイ担当)	斎藤 弘子
学長特命補佐(就職支援担当)	今井 昭夫
▶ 特命事項担当室	
国際交流担当	萩尾 生
就職支援、渉外担当	長崎 輝章
就職支援担当	山田文比古
IR担当	高橋 将宜
▶ 経営協議会	
凸版印刷株式会社印刷博物館館長	樺山 紘一
文化財建造物保存技術協会顧問	川村 恒明
NHK解説委員	加藤 青延
株式会社ブリヂストン相談役	荒川 詔四
昭和女子大学理事長	坂東真理子
首都大学東京大学院社会科学部研究科教授	松田千恵子
公益財団法人海外日系人協会理事長	田中 克之
杏林大学副学長	Paul Snowden
学 長	立石 博高
理事・副学長(人事、研究、機関連携等担当)	岩崎 稔
理事(財務、施設、IR、情報マネジメント等担当)・事務局長	匂坂 克久
大学院総合国際学研究院院長	青山 亨
大学院国際日本学研究院院長	早津恵美子
国際社会学部長	吉田ゆり子
アジア・アフリカ言語文化研究所長	飯塚 正人

▶ 教育研究評議会	
学 長	立石 博高
理事・副学長(総括、教育、広報等担当)	林 佳世子
理事・副学長(人事、研究、機関連携等担当)	岩崎 稔
理事(財務、施設、IR、情報マネジメント等担当)・事務局長	匂坂 克久
副学長(国際交流等担当)、附属図書館長	伊東 祐郎
副学長(学生支援、アラムナイ、社会貢献等担当)	武田 千香
大学院総合国際学研究院院長	青山 亨
大学院国際日本学研究院院長	早津恵美子
言語文化学部長	八木久美子
国際社会学部長	吉田ゆり子
アジア・アフリカ言語文化研究所長	飯塚 正人
留学生日本語教育センター長	藤村 知子
総合情報コラボレーションセンター長	栗田 博之
大学院総合国際学研究院副研究院長	吉本 秀之
大学院国際日本学研究院副研究院長	藤森 弘子
言語文化学部副学部長	浦田 和幸
国際社会学部副学部長	篠原 琢
アジア・アフリカ言語文化研究所副所長	中山 俊秀
留学生日本語教育センター副センター長	鈴木 智美
▶ 言語文化学部	
言語文化学部長	八木久美子
副学部長	浦田 和幸
言語・情報コース長	匹田 剛
グローバルコミュニケーションコース長	高島 英幸
総合文化コース長	水野 善文
▶ 国際社会学部	
国際社会学部長	吉田ゆり子
副学部長	篠原 琢
地域社会研究コース長	丹羽 泉
現代世界論コース長	今福 龍太
国際関係コース長	若松 邦弘
▶ 外国語学部	
外国語学部長	吉田ゆり子
外国語学部長代理	八木久美子
副学部長	浦田 和幸
副学部長	篠原 琢
言語・情報コース長	匹田 剛
総合文化コース長	水野 善文
地域・国際コース長	丹羽 泉

役職員(続き)

▶ 大学院総合国際学研究院	
研究科長	青山 亨
研究科長代理	早津恵美子
副研究科長	金 富子
副研究科長	鹿島 風子
▶ 大学院総合国際学研究院	
大学院総合国際学研究院院長	青山 亨
大学院総合国際学研究院副院長	宮本 秀之
大学院総合国際学研究院副院長	金 富子
▶ 大学院国際日本学研究院	
大学院国際日本学研究院院長	早津恵美子
大学院国際日本学研究院副院長	鹿島 風子
大学院国際日本学研究院副院長	鹿村 知子
▶ アジア・アフリカ言語文化研究所	
アジア・アフリカ言語文化研究所長	飯塚 正人
アジア・アフリカ言語文化研究所副所長	中山 俊秀
情報活用研究センター長	星 直
グローバルサイエンス研究センター長	辻藤 信幸
▶ 留学生日本語教育センター	
留学生日本語教育センター長	鹿村 知子
留学生日本語教育センター副センター長	鈴木 智美
▶ 総合情報センター	
附属図書館長	伊直 桂郎
▶ その他学内の国際教育・研究施設	
情報管理センター所長	山本 昌
グローバルキャリアセンター長	成田 千香
留学支援共同利用センター長	鹿島 直
総合情報コラボレーションセンター長	鹿田 博之

教育情報化支援センター長	林 佳世子
ワールド・ランゲージ・センター長	長野山紀典
世界言語社会教育センター長	林 佳世子
ILIF&オープンアカデミー推進委員長	佐野 洋
社会・国際貢献推進センター長	相田 昌樹
多言語・多文化教育研究センター長	成田 千香
国際日本研究センター長	宮本 秀之
海外事情研究センター長	大川 正孝
国際学研究所	成田 千香
総合文化研究所	山口 豊之
国際関係研究所	宮本 秀之
大学文芸部	菅田ゆり子
南アジア研究センター長	鹿島 直
現代アフリカ地域研究センター長	成田 千香
▶ 専攻科	
専攻科長	匂坂 克久
神道学専攻科長	大内道 づき
法学専攻科長	斎藤 康
神道学専攻科長(附帯・実践系)	斎藤 康
神道学専攻科長	大野 智子
社会福祉学専攻科長	本村 晴夜
人文学専攻科長	佐伯 孝之
会計学専攻科長	斎藤 康
経済学専攻科長	斎藤 康
研究協力専攻科長	山崎 隆夫
国際学専攻科長	成田 千香
情報学専攻科長	寺前 隆
国際化推進専攻科長	成田 千香
看護学専攻科長	水村 直人
学生学専攻科長	山口 豊之
入試学専攻科長	長山 紀典
留学生学専攻科長	大八木 隆夫
研究科専攻科長	菅田 幸

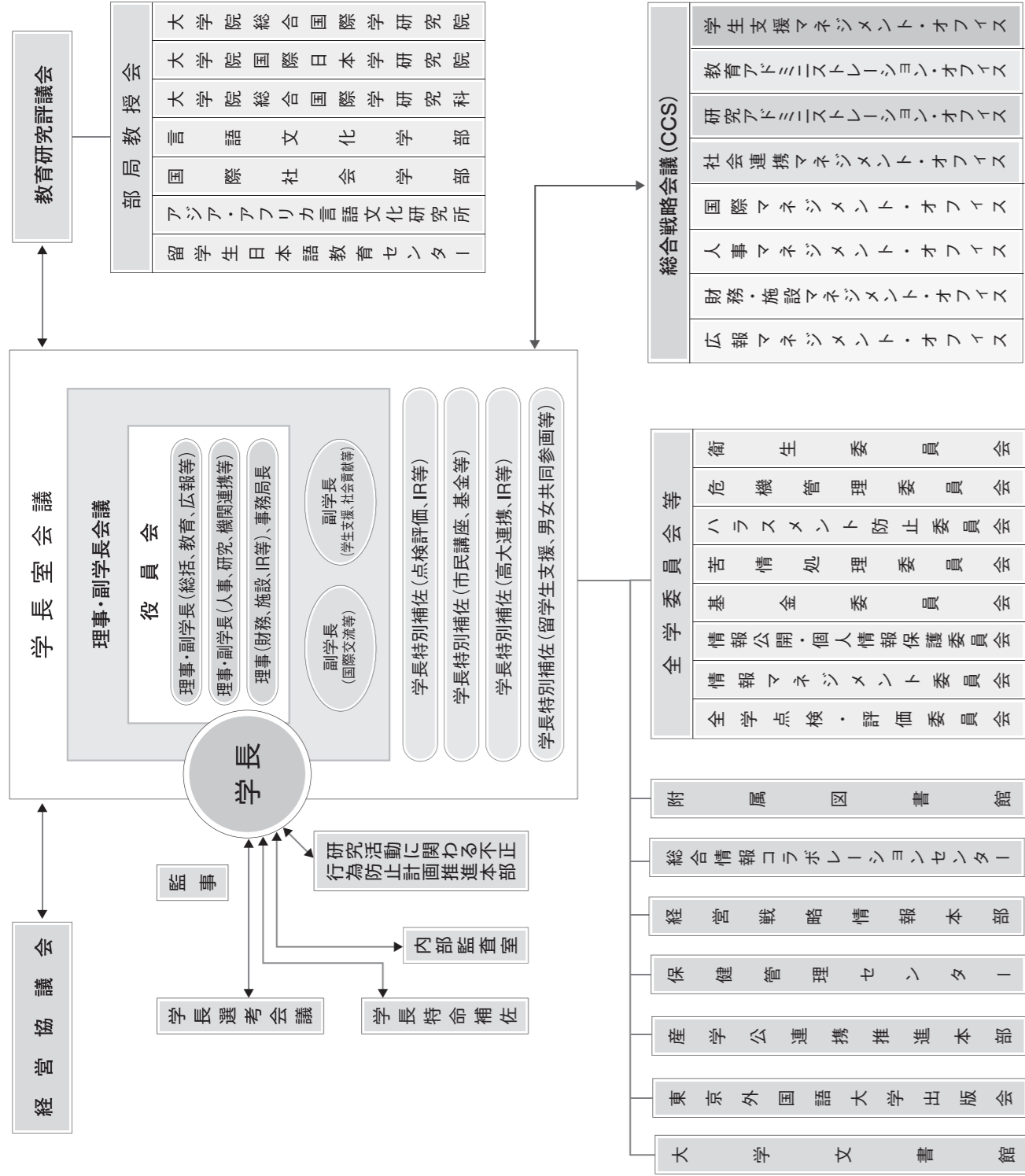
教職員数

(2017年5月1日現在)

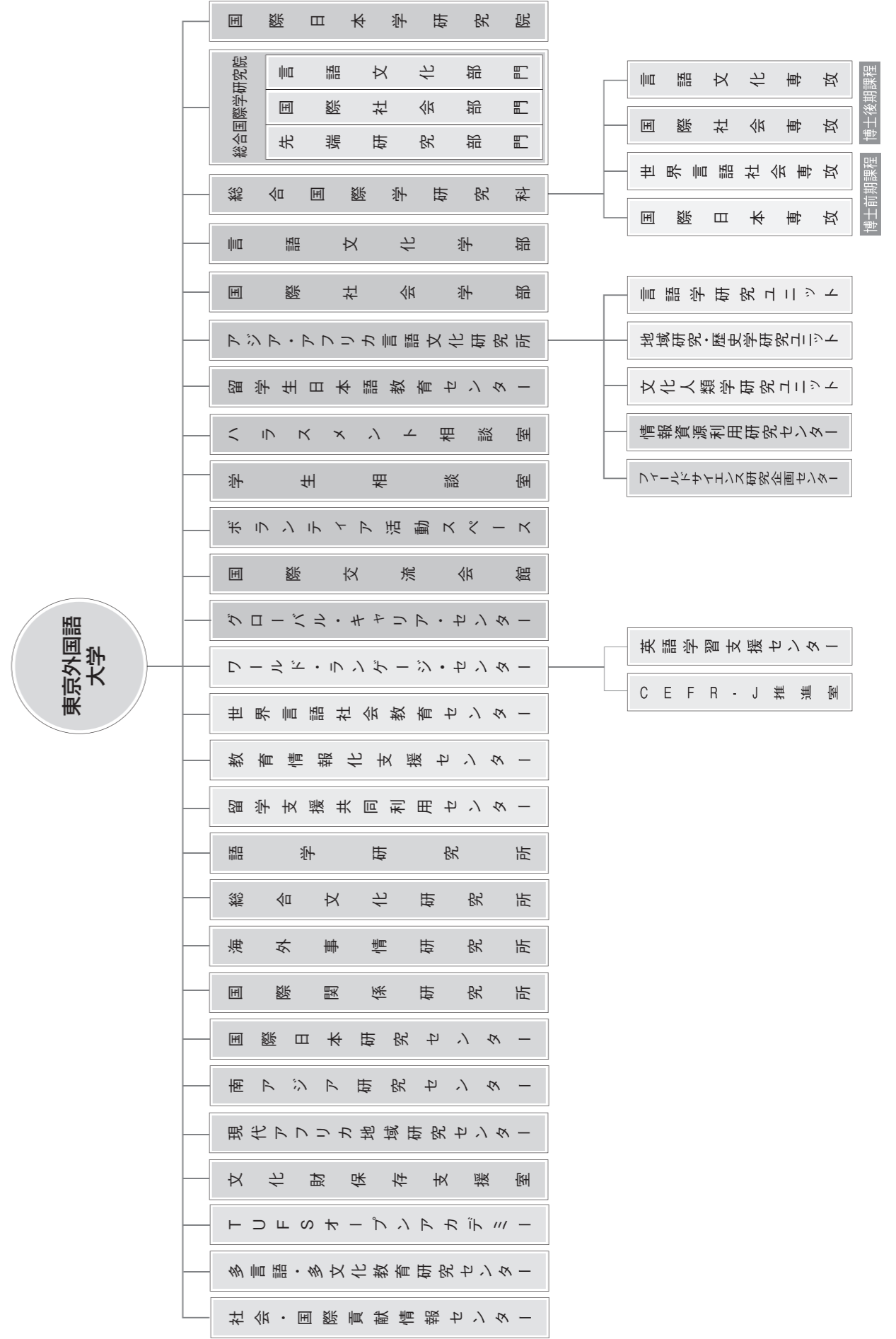
区分	専任	非常勤	嘱託	准嘱託	教員	准教員	講師	助教	助手	他(海外 派遣教員)	外国人 研究員	専任・ 非常勤 職員	他(海外 派遣 職員)	計
役員等	1	3	2	2	2									8 (2)
大学院総合国際学研究院					69	41	10							120
大学院国際日本学研究院					17	12	5							34
アジア・アフリカ言語文化研究所					17	14		6			3			38 (4)
現代アフリカ地域研究センター					1			3						4 (1)
世界言語社会教育センター								12	10	1	32			55 (61)
特命事項担当室					3			1						4 (3)
情報管理センター					1							1		2 (1)
専攻科												113		113
その他													24	24 (24)
計	1	3	2	2	108	87	30	14	1	32	3	114	24	403 (2)54

()は非常勤者内数です。[]は有期雇用職員内数です。

運営組織



教育研究組織



学生数在籍者数

言語文化学部

(2017年5月1日現在)

専攻	1年			2年			3年			4年			総計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
英語 /北西ヨーロッパ地域	6	8	14	7	16	23	7	22	29	5	24	29	95
英語 /北アメリカ地域	12	14	26	8	9	17	4 ⁽¹⁾	19 ⁽¹⁾	23 ⁽²⁾	19 ⁽¹⁾	17 ⁽²⁾	36 ⁽³⁾	102
英語 /オセアニア地域				1	1	1	2	3		1	1	1	5
ドイツ語 /中央ヨーロッパ地域	10	17	27	8	20	28	12 ⁽¹⁾	20	32 ⁽¹⁾	22 ⁽²⁾	31	53 ⁽²⁾	140
ポーランド語 /中央ヨーロッパ地域	1	7	8	3	7	10	2	8	10	3	8	11	39
チェコ語 /中央ヨーロッパ地域	5	3	8	4	5	9	3	7	10	2	6	8	35
フランス語 /西南ヨーロッパ地域	5	23	28	9	22	31	4	29 ⁽¹⁾	33 ⁽¹⁾	10 ⁽²⁾	35 ⁽²⁾	45 ⁽⁴⁾	137
イタリア語 /西南ヨーロッパ地域	3	10	13	5	9	14	3	17	20 ⁽¹⁾	4 ⁽¹⁾	16	20 ⁽¹⁾	67
スペイン語 /西南ヨーロッパ地域	7	17	24	9	20	29	11	22 ⁽¹⁾	33 ⁽¹⁾	12 ⁽¹⁾	25 ⁽¹⁾	37 ⁽²⁾	123
スペイン語 /ラテンアメリカ地域	4	3	7	1	3	4	5	4	9	2	9	11	31
ポルトガル語 /西南ヨーロッパ地域	3	6	9	3	7	10	1	11	12	5	10	15	46
ポルトガル語 /ラテンアメリカ地域	3	3	6	3		3	3		3	2 ⁽¹⁾	8	10 ⁽¹⁾	22
ロシア語 /ロシア地域	11	13	24	14	15	29	11 ⁽¹⁾	22 ⁽¹⁾	33 ⁽²⁾	18	22 ⁽¹⁾	40 ⁽¹⁾	126
ロシア語 /中央アジア地域	1	5	6	4	4	8	2	6	8	2	8	10	32
モンゴル語 /中央アジア地域	4	4	8	3	4	7	3	5	8	4	8	12	35
日本語(日本人) /日本地域	2	9	11	3	9	12	5	10	15	1	9 ⁽¹⁾	10 ⁽¹⁾	48
日本語(外国人) /日本地域	8	12	20	11	11	22	5	8	13	5	11	16	71
中国語 /東アジア地域	7	25	32	10	21	31	13	27 ⁽⁴⁾	40 ⁽⁴⁾	18 ⁽¹⁾	22 ⁽³⁾	40 ⁽⁴⁾	143
朝鮮語 /東アジア地域	1	15	16	1	15	16		16 ⁽²⁾	16 ⁽²⁾	2	28 ⁽³⁾	30 ⁽³⁾	78
インドネシア語 /東南アジア地域	3	7	10	2	9	11	7	10	17	3	10	13	51
マレーシア語 /東南アジア地域	1	4	5	1	5	6	3	3	6	3	5	8	25
フィリピン語 /東南アジア地域	2	5	7	3	6	9	2	10	12	3	6	9	37
タイ語 /東南アジア地域	1	7	8	1	7	8	3	6	9	2	12	14	39
ラオス語 /東南アジア地域	1	4	5	1	5	6	2	5	7	3	7	10	28
ベトナム語 /東南アジア地域		5	5	1	6	7	4	7	11	3	5	8	31
カンボジア語 /東南アジア地域	1	4	5	3	2	5	2	6	8	5	4	9	27
ビルマ語 /東南アジア地域	3	3	6	1	5	6	1	8	9	2	5	7	28
ウルドゥー語 /南アジア地域	3	4	7	2	5	7	4	7	11	5	7	12	37
ヒンディー語 /南アジア地域	3	9	12	7	7	14	4	6	10	4	13	17	53
ベンガル語 /南アジア地域	3	2	5	2	4	6	3	4 ⁽¹⁾	7 ⁽¹⁾	2	7	9	27
アラビア語 /西アジア・北アフリカ地域	5	9	14	7	9	16	6 ⁽¹⁾	13	19 ⁽¹⁾	6	14	20	69
ペルシア語 /西アジア・北アフリカ地域	3	5	8	4	4	8	2	6	8	1	8	9	33
トルコ語 /西アジア・北アフリカ地域	2	5	7	5	3	8		10	10	4	6	10	35
合計	124	267	391	146	275	421	138	356	494	182	407	589	1,895
収容定員		370		370		385		385		385		1,510	

(注)*の()は、3年時編入生を内数で示す。

国際社会学部

(2017年5月1日現在)

専攻	1年			2年			3年			4年			総計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
北西ヨーロッパ地域 /英語	8	9	17	6	12	18	11 ⁽²⁾	10 ⁽²⁾	21 ⁽⁴⁾	7 ⁽¹⁾	9	16 ⁽¹⁾	72
中央ヨーロッパ地域 /ドイツ語	8	29	37	11	20	31	11	19	30	16	29	45	143
中央ヨーロッパ地域 /ポーランド語		6	6	3	6	9	2	6	8	1	3	4	27
中央ヨーロッパ地域 /チェコ語	4	1	5	2	4	6	2	8	10	1	4	5	26
西南ヨーロッパ地域 /フランス語	10	24	34	6	25	31	7	30 ⁽¹⁾	37 ⁽¹⁾	18 ⁽¹⁾	26 ⁽¹⁾	44 ⁽²⁾	146
西南ヨーロッパ地域 /イタリア語	4	8	12	6	7	13		12	12	8	13	21	58
西南ヨーロッパ地域 /スペイン語	2	13	15	4	12	16	3	14	17	10	20	30	78
西南ヨーロッパ地域 /ポルトガル語	1	3	4		2	2		2	2	3	4	7	15
ロシア地域 /ロシア語	11	13	24	17	12	29	14 ⁽¹⁾	16	30 ⁽¹⁾	19	14	33	116
北アメリカ地域 /英語	9	8	17	12	11	23	12 ⁽¹⁾	9 ⁽¹⁾	21 ⁽²⁾	16 ⁽⁴⁾	7 ⁽²⁾	23 ⁽⁶⁾	84
ラテンアメリカ地域 /スペイン語	9	15	24	5	14	19	12	17 ⁽¹⁾	29 ⁽¹⁾	11	15	26	98
ラテンアメリカ地域 /ポルトガル語	2	4	6	4	2	6	7	2	9	5 ⁽¹⁾	7	12 ⁽¹⁾	33
日本地域 /日本語(日本人)	2	3	5	2	4	6	1	4 ⁽¹⁾	5 ⁽¹⁾	5 ⁽²⁾	8 ⁽²⁾	13 ⁽⁴⁾	29
日本地域 /日本語(外国人)	7	10	17	9	11	20	7 ⁽¹⁾	8 ⁽¹⁾	15 ⁽²⁾	8	9	17	69
東アジア地域 /中国語	8	22	30	19	15	34	14 ⁽²⁾	23	37 ⁽²⁾	21	28 ⁽¹⁾	49 ⁽¹⁾	150
東アジア地域 /朝鮮語	2	10	12	3	14	17	5	10 ⁽¹⁾	15 ⁽¹⁾	8 ⁽¹⁾	16 ⁽¹⁾	24 ⁽²⁾	68
中央アジア地域 /モンゴル語	5	3	8	4	3	7		8	8	3	9	12	35
中央アジア地域 /ロシア語	2	5	7	4	3	7	2	5	7	4	5	9	30
東南アジア地域 /インドネシア語	2	6	8	4	7	11	7	9	16	4	7	11	46
東南アジア地域 /マレーシア語	2	6	8	4	4	8	2	7	9	2	4	6	31
東南アジア地域 /フィリピン語	1	4	5	3	6	9	2	6	8	4	7	11	33
東南アジア地域 /タイ語	1	9	10	3	5	8	2	11	13	2	7	9	40
東南アジア地域 /ラオス語		4	4		5	5	1	4	5	3	3	6	20
東南アジア地域 /ベトナム語	3	6	9	3	5	8	4	10	14	6	2	8	39
東南アジア地域 /カンボジア語	2	1	3	4	4	8		2	2	3	7	10	23
東南アジア地域 /ビルマ語	3		3	3	3	6	2	5	7		4	4	20
南アジア地域 /ウルドゥー語		4	4	2	6	8	7	5	12	3	2	5	29
南アジア地域 /ヒンディー語	5	6	11	5	7	12	5	9	14	7	5	12	49
南アジア地域 /ベンガル語	1	2	3	1	5	6		8	8	1	5	6	23
西アジア・北アフリカ地域 /アラビア語	6	12	18	5	15	20	4	14	18	4	18	22	78
西アジア・北アフリカ地域 /ペルシア語	2	5	7	1	5	6	2	4	6	3	8	11	30
西アジア・北アフリカ地域 /トルコ語	2	6	8	2	5	7	2	5	7	6	8	14	36
アフリカ地域 /英語	7	9	16	4	12	16	9 ⁽¹⁾	15 ⁽³⁾	24 ⁽⁴⁾	9 ⁽²⁾	16 ⁽¹⁾	25 ⁽³⁾	81
オセアニア地域 /英語	7	5	12	5	7	12	5	10	15	8	8 ⁽¹⁾	16 ⁽¹⁾	55
合計	138	271	409	166	278	444	164	327	491	229	337	566	1,910
収容定員		375		375		390		390		390		1,530	

(注)*の()は、3年時編入生を内数で示す。

学生数在籍者数 (続き)

外国語学部

(2017年5月1日現在)

課程	専攻語	2年			3年			4年			総計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
欧米第一課程	英語*							1	1 ⁽ⁿ⁾	2 ⁽ⁿ⁾	2
	ドイツ語					1	1	2	2	4	5
欧米第二課程	フランス語								1	1	1
	イタリア語		1	1				1	2	3	4
	スペイン語							3		3	3
	ポルトガル語							1		1	1
ロシア・東欧課程	ロシア語							4	1	5	5
	ポーランド語							2		2	2
	チェコ語								1	1	1
東アジア課程	中国語							1	2	3	3
	朝鮮語*							1	1 ⁽ⁿ⁾	2 ⁽ⁿ⁾	2
	モンゴル語							1	1	2	2
東南アジア課程	マレーシア語							2		2	2
	フィリピン語							1		1	1
	ラオス語								1	1	1
	カンボジア語							1	1	2	2
南・西アジア課程	ウルドゥー語							1		1	1
	ヒンディー語							1		1	1
	アラビア語							1		1	1
	ペルシア語							1		1	1
トルコ語								1		1	1
								1		1	1
日本課程	日本語	1		1		1	1	2		2	4
合計		1	1	2	0	2	2	28	14	42	46

(注) *は3年次編入を含む
 ※2011年で募集停止

大学院総合国際学研究所

(2017年5月1日現在)

課程	専攻	1年			2年			3年			総計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
博士前期課程 ^{※1}	言語文化専攻				8	9	17				8	9	17
	言語応用専攻				5	2	7				5	2	7
	地域・国際専攻				10	8	18				10	8	18
	国際協力専攻				3	8	11				3	8	11
	合計				26	27	53				26	27	53
博士前期課程	世界言語社会専攻	36	54	90	35	54	89				71	108	179
	国際日本専攻	12	36	48	15	28	43				27	64	91
	合計	48	90	138	50	82	132				98	172	270
博士後期課程	言語文化専攻	9	14	23	5	14	19	35	38	73	49	66	115
	国際社会専攻	8	13	21	6	6	12	28	37	65	42	56	98
	合計	17	27	44	11	20	31	63	75	138	91	122	213

※1 2015年で募集停止

学部在籍者数 計

(2017年5月1日現在)

学部	1年			2年			3年			4年			統計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
言語文化学部	124	267	391	146	275	421	138	356	494	182	407	589	590	1,305	1,895
国際社会学部	138	271	409	166	278	444	164	327	491	229	337	566	697	1,213	1,910
外国語学部	0	0	0	1	1	2	0	2	2	28	14	42	29	17	46
計	262	538	800	313	554	867	302	685	987	439	758	1,197	1,316	2,535	3,851

大学院在籍者数 計

(2017年5月1日現在)

研究科	課程	1年			2年			3年			統計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総合国際学研究所	博士前期課程	48	90	138	76	109	185				124	199	323
	博士後期課程	17	27	44	11	20	31	63	75	138	91	122	213
計		65	117	182	87	129	216	63	75	138	215	321	536

入学者数・入学志願者数

言語文化学部

(2017年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
言語文化 学科	370	英語	41	51	83	134	18	22	40
		ドイツ語	27	25	68	93	10	17	27
		ポーランド語	7	6	16	22	1	7	8
		チェコ語	7	9	12	21	5	3	8
		フランス語	27	20	76	96	5	23	28
		イタリア語	14	15	41	56	3	10	13
		スペイン語	30	32	68	100	11	20	31
		ポルトガル語	13	22	35	57	6	9	15
		ロシア語	30	39	67	106	11	18	29
		モンゴル語	7	12	23	35	4	4	8
		日本語	10	8	27	35	2	9	11
			15	66	81	147	8	12	20
		中国語	28	26	96	122	7	25	32
		朝鮮語	14	2	52	54	1	15	16
		インドネシア語	10	21	58	79	3	7	10
		マレーシア語	5	10	19	29	1	4	5
		フィリピン語	7	10	22	32	2	5	7
		タイ語	7	6	17	23	1	7	8
		ラオス語	5	11	16	27	1	4	5
		ベトナム語	6	24	37	61	0	5	5
		カンボジア語	5	17	40	57	1	4	5
		ビルマ語	5	15	16	31	3	3	6
		ウルドゥー語	7	20	25	45	3	3	6
		ヒンディー語	10	19	32	51	3	9	12
		ベンガル語	5	11	15	26	3	2	5
		アラビア語	14	16	28	44	5	9	14
ペルシア語	7	26	37	63	3	5	8		
トルコ語	7	8	24	32	2	5	7		
合 計			370	547	1,131	1,678	123	266	389

(注) 入学志願者数及び入学者数には推薦入試、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試、国費外国人留学生入試等(学部留学生)及び日本語・日本地域留学生(渡日前選抜)を含む。
募集単位の日本語の欄は上段は日本人学生を、下段は外国人留学生を示す。

言語文化学部(推薦入試)

(2017年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
言語文化 学科	12	英語	2	5	15	20	1	1	2
		ドイツ語	2	5	13	18	2		2
		フランス語	2	5	24	29		2	2
		スペイン語	2	5	15	20		2	2
		ロシア語	2	3	10	13	1	1	2
中国語	2		19	19		2	2		
合 計			12	23	96	119	4	8	12

言語文化学部(3年次編入学)

(2017年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
言語文化 学科	15	言語・情報	15	4	13	17	1	4	5
		グローバルコミュニケーション		3	3	6	1	1	2
		総合文化		10	16	26	2	6	8
合 計			15	17	32	49	4	11	15

国際社会学部

(2017年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
国際社会 学科	375	北西ヨーロッパ	11	65	79	144	8	8	16
		中央ヨーロッパ	41	111	178	289	11	33	44
		西南ヨーロッパ第1	41	91	202	293	14	32	46
		西南ヨーロッパ第2	17	34	89	123	3	16	19
		ロシア	25	72	86	158	11	13	24
		北アメリカ	16	98	93	191	8	8	16
		ラテンアメリカ	27	66	87	153	9	17	26
		日本	5	14	12	26	2	3	5
			15	63	52	115	7	10	17
		東アジア	42	102	229	331	10	32	42
		中央アジア	13	17	24	41	7	7	14
		東南アジア第1	21	56	117	173	5	16	21
		東南アジア第2	28	108	199	307	9	20	29
		南アジア	21	57	95	152	6	12	18
		西アジア・北アフリカ	27	59	128	187	10	23	33
		アフリカ	15	35	73	108	7	9	16
		オセアニア	10	15	23	38	7	5	12
合 計			375	1,063	1,766	2,829	134	264	398

(注) 入学志願者数及び入学者数には帰国生等特別推薦入試、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試、国費外国人留学生入試等(学部留学生)及び日本語・日本地域留学生(渡日前選抜)を含む。
募集単位の日本の欄は上段は日本人学生を、下段は外国人留学生を示す。

国際社会学部(3年次編入学)

(2017年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
国際社会 学科	15	地域社会研究	15	2	8	10	1	2	3
		現代世界論		3	7	10	1	2	3
		国際関係		19	18	37	3	6	9
合 計			15	24	33	57	5	10	15

大学院総合国際学研究所

(2017年5月1日現在)

課 程	定 員	専 攻	入学志願者数			入学者数		
			男	女	計	男	女	計
博士前期課程	102	世界言語社会専攻	77	131	208	34	48	82
	46	国際日本専攻	24	88	112	11	32	43
合 計			101	219	320	45	80	125
博士後期課程	20	言語文化専攻	13	28	41	9	14	23
	20	国際社会専攻	8	15	23	5	10	15
合 計			21	43	64	14	24	38

(注) 博士前期課程の世界言語社会専攻PCSコースと国際日本専攻日本語教育リカレントコースは、10月入学であるため2017年5月1日現在の入学志願者数のみ計上している。
博士後期課程の国際社会専攻PCS分野は、10月入学であるため2017年5月1日現在の入学志願者数のみ計上している。

留学者数

入学年と留学者数

入学年	長期留学	短期留学	総計
2010	0	1	1
2011	3	0	3
2012	33	11	44
2013	393	14	407
2014	323	40	363
2015	22	195	217
2016	8	322	330
総計	782	583	1,365

学部別留学者数

入学年	長期留学	短期留学	総計
外国語学部	3	1	4
言語文化学部	388	283	671
国際社会学部	391	299	690
総計	782	583	1,365

長期留学：留学先地域・タイプ別留学者数

	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターンシップ	合計
アフリカ	9	3	13	3	28
オセアニア	12	4	7	1	24
ヨーロッパ	133	48	110	3	294
ロシア・中央アジア	35	15	4		54
中東	9	7	10		26
中南米	24	7	16	8	55
東アジア	42	26	17		85
東南アジア	36	31	28	15	110
南アジア		3	13	1	17
北米	28	16	44	1	89
総計	328	160	262	32	782

短期留学：留学先地域・タイプ別留学者数

	ショートビジット	スタディツアー	短期インターンシップ	日本語教育 インターンシップ	合計
アフリカ	17				17
オセアニア	21				21
ヨーロッパ	146	22			168
ロシア・中央アジア	14	21			35
中東	28				28
中南米	13	24			37
東アジア	60			2	62
東南アジア	80	4	9		93
南アジア	11	5			16
北米	106				106
総計	496	76	9	2	583

国際学術交流協定校数

国・地域		機関数
アジア	バングラデシュ	1
	ブータン	1
	ブルネイ	1
	カンボジア	1
	中国	11
	インド	5
	インドネシア	5
	ラオス	1
	マレーシア	3
	モンゴル	2
	ミャンマー	1
	パキスタン	3
	フィリピン	2
	韓国	10
	シンガポール	1
	タイ	4
	ベトナム	3
	台湾	5
	小計	18ヶ国・地域/60機関
	オセアニア	オーストラリア
ニュージーランド		2
小計		2ヶ国/4機関
中東	イラン	3
	ヨルダン	1
	レバノン	3
	シリア	1
	トルコ	4
	パレスチナ	1
	小計	6ヶ国/13機関
アフリカ	南アフリカ	1
	ガーナ	1
	ルワンダ	1
	カメルーン	2
	エジプト	2
	マリ	1
	モロッコ	1
	モザンビーク	2
	ザンビア	1
	ジンバブエ	1
小計	10ヶ国/13機関	
ヨーロッパ	リトアニア	1
	オーストリア	2
	ブルガリア	1
	チェコ	1
	フランス	10
	ドイツ	10
	ハンガリー	1
	アイルランド	1
	イタリア	6
カザフスタン	1	

国・地域		機関数
ヨーロッパ	オランダ	2
	ノルウェー	1
	ポーランド	3
	ポルトガル	4
	ルーマニア	1
	ロシア	5
	セルビア	1
	スロベニア	1
	スペイン	10
	スイス	2
	トルクメニスタン	1
	英国	4
	ウズベキスタン	1
	ウクライナ	1
小計	24ヶ国/71機関	
北アメリカ	カナダ	2
	米国	9
	小計	2ヶ国/11機関
中南米	キューバ	1
	アルゼンチン	1
	ブラジル	3
	コロンビア	1
	コスタリカ	1
	メキシコ	2
ウルグアイ	1	
小計	7ヶ国/10機関	
合計	69ヶ国・地域	182機関

その他、コンソーシアム	
アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム (CAAS)	
欧州大学院 (EUIJ)	
東アジア圏外国語大学コンソーシアム	
シルクロード大学ネットワーク	
アジア外国研究系大学コンソーシアム	
合計	5 コンソーシアム

(2017年5月1日現在)

2016年度卒業・修了者数

外国語学部

課程/専攻		言語・情報 コース	総合文化 コース	地域・国際 コース	合計
欧米第一課程	英語	1	2	1	4
	ドイツ語	3	2	2	7
欧米第二課程	フランス語		3	1	4
	イタリア語		3	3	6
	スペイン語		4	2	6
	ポルトガル語		1	3	4
	ロシア語	1	3	1	5
ロシア・東欧課程	ポーランド語	2	2		4
	チェコ語	1		1	2
	中国語		2	3	5
東アジア課程	朝鮮語			4	4
	インドネシア語		2		2
東南アジア課程	マレーシア語			1	1
	フィリピン語		1	2	3
	タイ語		2		2
	ラオス語	1			1
	ベトナム語	1			1
	ビルマ語	1		1	2
	ウルドゥー語	1			1
南・西アジア課程	アラビア語			1	1
	ペルシア語		1	2	3
	日本語	1			1
日本課程	日本語	2		1	3
	日本語	1			1
総計		15	28	29	72

2015年9月卒業を含む。
日本課程の欄は、上段は日本人学生を、下段は外国人留学生を示す。

言語文化学部

専攻	言語・情報 コース	グローバルコミュニケーション コース	総合文化 コース	合計
英語	北西ヨーロッパ地域	9	2	15
	北アメリカ地域	4	9	13
	オセアニア地域	1	1	3
ドイツ語	中央ヨーロッパ地域	8	2	29
ポーランド語	中央ヨーロッパ地域	4	1	5
チェコ語	中央ヨーロッパ地域	8	1	11
フランス語	西南ヨーロッパ地域	6	5	29
イタリア語	西南ヨーロッパ地域	3	6	16
スペイン語	西南ヨーロッパ地域	8	2	18
	ラテンアメリカ地域	1	4	5
ポルトガル語	西南ヨーロッパ地域	3	1	8
	ラテンアメリカ地域	1	4	5
ロシア語	ロシア地域	6	1	23
	中央アジア地域	2		5
モンゴル語	中央アジア地域	3	4	7
日本語	日本地域	6	5	12
	日本地域	8	1	12
中国語	東アジア地域	11	4	30
朝鮮語	東アジア地域	7	4	16
インドネシア語	東南アジア地域	2	2	8
マレーシア語	東南アジア地域	1	1	5
フィリピン語	東南アジア地域		2	6
タイ語	東南アジア地域	4		6
ラオス語	東南アジア地域	3	1	6
ベトナム語	東南アジア地域		2	5
カンボジア語	東南アジア地域	1		3
ビルマ語	東南アジア地域	3	1	6
ウルドゥー語	南アジア地域	2	2	5
ヒンディー語	南アジア地域	4	4	11
ベンガル語	南アジア地域	1	1	5
アラビア語	西アジア・北アフリカ地域	2		10
ペルシア語	西アジア・北アフリカ地域	2		8
トルコ語	西アジア・北アフリカ地域			4
総計		122	67	350

2015年9月卒業を含む。
日本課程の欄は、上段は日本人学生を、下段は外国人留学生を示す。

国際社会学部

専攻	地域社会 研究コース	現代世界 論コース	国際関係 コース	合計	
北西ヨーロッパ地域	英語	4	5	9	
	ドイツ語	11	4	24	
中央ヨーロッパ地域	ポーランド語	2	2	10	
	チェコ語	6	1	9	
	フランス語	2	5	22	
西南ヨーロッパ地域	イタリア語		2	11	
	スペイン語	3	5	10	
	ポルトガル語	1	1	4	
ロシア地域	ロシア語	9	4	25	
北アメリカ地域	英語	3	8	23	
ラテンアメリカ地域	スペイン語	6	8	17	
	ポルトガル語	4	1	8	
日本地域	日本語(日本人)	1	2	8	
	日本語(外国人)	10	3	14	
東アジア地域	中国語	13	2	22	
	朝鮮語	5	6	13	
中央アジア地域	モンゴル語	2	2	6	
	ロシア語	2		3	
東南アジア地域	インドネシア語	6		12	
	マレーシア語	2	3	5	
	フィリピン語	2	3	5	
	タイ語	10	2	13	
	ラオス語		2	2	
	ベトナム語	5	2	10	
	カンボジア語	3	1	4	
	ビルマ語	2		2	
	南アジア地域	ウルドゥー語	3		5
		ヒンディー語	1	4	9
ベンガル語		1	3	4	
西アジア・北アフリカ地域	アラビア語	7	3	13	
	ペルシア語		1	2	
トルコ語	3	2	7		
アフリカ地域	英語	3		15	
オセアニア地域	英語	4	2	8	
総計		130	90	354	

2015年9月卒業を含む。

大学院総合国際学研究所

課程	専攻	計
博士前期課程	言語文化専攻	39
	言語応用専攻	22
	地域・国際専攻	32
	国際協力専攻	31
	世界言語社会専攻	4
	合計	128
博士後期課程	言語文化専攻	2
	国際社会専攻	1
	合計	3

2016年度卒業・修了者進路状況

(2017年5月1日現在)

区分	卒業 者数	進学 者数	就職 者数	内 訳																	専修 学校・外国 の学校等入学者	一時的な 仕事に ついたら者	左記以外・不 詳・死亡の者
				鉱業・探掘業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業・小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	学術研究・専門・技術サービス業	宿泊業・飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	教育・学習支援業	医療福祉	サービス業	公務	左記以外			
外国語学部	72		62		3	11		16	6	7	1	6		2	3	1	5		1	1		9	
言語文化学部	350	44	280	1	5	61		45	23	35	25	3	22	6	15	6	1	5	27		5	4	17
国際社会学部	354	24	308	2	5	71	4	46	20	28	37	1	32	4	5	9	1	10	32	1	6	1	15
小計	776	68	650	3	13	143	4	107	49	70	63	4	60	10	22	18	3	20	59	2	12	5	41
博士前期課程	128	30	59	1	2	14	1	9		4	1		6	1		11		4	4	1	3		36
博士後期課程	31		14					1					3			9		1			1	7	9
小計	159	30	73	1	2	14	1	10		4	1		9	1		20		5	4	1	4	7	45
合計	935	98	723	4	15	157	5	117	49	74	64	4	69	11	22	38	3	25	63	3	16	12	86

(注) 大学院博士後期課程は、満期退学者を含む。

※ 男女数の内訳、具体的な企業名については、大学ウェブサイト「学生生活・就職 > グローバル・キャリア・センター」参照。

教育・研究プロジェクト一覧

進行中の主な補助金事業

(2017年4月1日現在)

Table with 2 columns: 事業名 (Project Name) and プロジェクト名 (Project Title). Rows include: スーパーグローバル大学創成支援事業 (Super Global University Creation Support Project), 国立大学の国際化推進 (Internationalization of National Universities), 大学の国際能力強化事業 (International Capacity Enhancement Project), etc.

科学研究費補助金による研究プロジェクト一覧

(2017年4月1日現在)

Table with 4 columns: 代表者氏名 (Representative Name), 研究領域 (Research Field), 研究題目 (Research Title), 研究内容 (Research Content). Rows are categorized by research field (e.g., 工学, 理学, 農学).

科学研究費補助金による研究プロジェクト一覧(続き)

(2017年4月1日現在)

Table with 4 columns: 代表者氏名 (Representative Name), 研究領域 (Research Field), 研究題目 (Research Title), 研究内容 (Research Content). Continuation of the research project list from the previous page.

附属図書館蔵書数 / 出版物数

[附属図書館蔵書数 ※アジア・アフリカ言語文化研究所を含む全蔵書冊数]

和漢書	洋書	製本雑誌等	計
297,854	463,980	93,427	855,261

[言語別図書内訳 ※アジア・アフリカ言語文化研究所を除く]

区分	図書の冊数	区分	図書の冊数	区分	図書の冊数
英語	128,516	日本語	213,766	ビルマ語	3,638
ドイツ語	25,904	中国語	57,257	ウルドゥー語	8,550
ポーランド語	7,219	朝鮮語	11,370	ヒンディー語	19,645
チェコ語	2,291	インドネシア語	4,952	ベンガル語	3,214
フランス語	25,195	マレーシア語(マライ語)	4,437	アラビア語	5,643
イタリア語	10,204	フィリピン語(タガログ語)	372	ペルシア語	3,272
スペイン語	23,431	タイ語	5,483	トルコ語	4,187
ポルトガル語	10,344	ラオス語(ラオ語)	2,442	オランダ語	2,788
ロシア語	42,403	ベトナム語	3,323	その他 インド諸語	7,579
モンゴル語	7,063	カンボジア語(クメール語)	1,374	その他	75,951
				合計	721,813

[雑誌タイトル数 ※アジア・アフリカ言語文化研究所を含む]

和漢雑誌	洋雑誌	計
6,082	3,378	9,460

東京外国語大学出版点数(総数)

学術・教養	翻訳	教材	計
21	11	13	45

アジア・アフリカ言語文化研究所出版物(2016年度刊行)

タイトル	計
アジア・アフリカ言語文化研究	2
アジア・アフリカの言語と言語学	1
NUSA: Linguistic studies of Languages in and around Indonesia	1
地域・文化研究	13
言語研修テキスト	6
アジア・アフリカ基礎語彙集	1
フィールドプラス	2
電子出版物	6
計	32

TUFS オープンアカデミー

アカデミー講座

		期 間	開講講座数	受講者数
春期間	語学講座	4月~7月	78	998
	教養講座		13	170
夏期間	語学講座	7月~9月	43	523
	教養講座		6	73
秋期間	語学講座	10月~2月	72	987
	教養講座		8	105
合 計			220	2,856

一般聴講生制度

		期 間	開放科目数	聴講者数
春学期		4月~7月	150	283
夏学期		7月~9月	14	29
秋学期		10月~1月	125	205
冬学期		1月~3月	14	31
合 計			303	548

合 計		開講講座数/ 開放科目数	受講/聴講者数
		523	3,404

大学の財政状況

予算(2017年度)

(単位:百万円)

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
運営費交付金	3,000	業務費	5,622
補助金等収入	248	教育研究経費	5,622
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	15	施設整備費	15
自己収入	2,522	補助金等	170
授業料、入学料及び検定料収入	2,206	産学連携等研究経費及び寄附金事業等	125
雑収入	315	合計	5,932
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	125		
引当金取崩	23		
合計	5,932		

科学研究費助成事業交付状況(2017年度)

(単位:千円)

研究種目	交付件数 (件)	交付総額 (千円)	部局							
			大学院総合国際学研究院		大学院国際日本学研究院		アジア・アフリカ 言語文化研究所		その他	
新学術領域研究 (研究領域提案型)	2	25,220	2	25,220						
基盤研究	A	10	76,660	6	39,360			4	40,300	
	B	44	171,690	25	91,260	2	5,720	11	47,800	6
	C	65	74,945	25	28,990	8	8,450	22	24,375	10
挑戦的萌芽研究	4	3,250	1	390	2	1,560	1	1,300		
若手研究	A	1	2,470					1	2,470	
	B	32	32,110	8	6,110	1	1,560	7	6,630	16
研究活動 スタート支援	3	2,540					3	2,540		
研究成果公開 促進費	5	16,700					2	12,400	3	4,300
特別研究員 奨励費	20	18,842							20	18,842
計	186	427,427	67	191,330	13	17,290	51	137,815	55	80,992

※金額は直接経費と間接経費の合計金額

外部資金受入状況(2016年度)

(単位:千円)

区分	受入件数 (件)	受入総額 (千円)	部局							
			大学院総合国際学研究院		大学院国際日本学研究院		アジア・アフリカ 言語文化研究所		その他	
共同研究	1	1,080							1	1,080
受託研究	4	17,808	1	6,460			3	11,348		
受託事業	8	5,891							8	5,891
寄附金	18	25,313	3	3,220			1	800	14	21,293
著作権収入	5	337							5	337
計	36	50,429	4	9,680			4	12,148	28	28,601

土地・建物

土地面積

(単位:m)

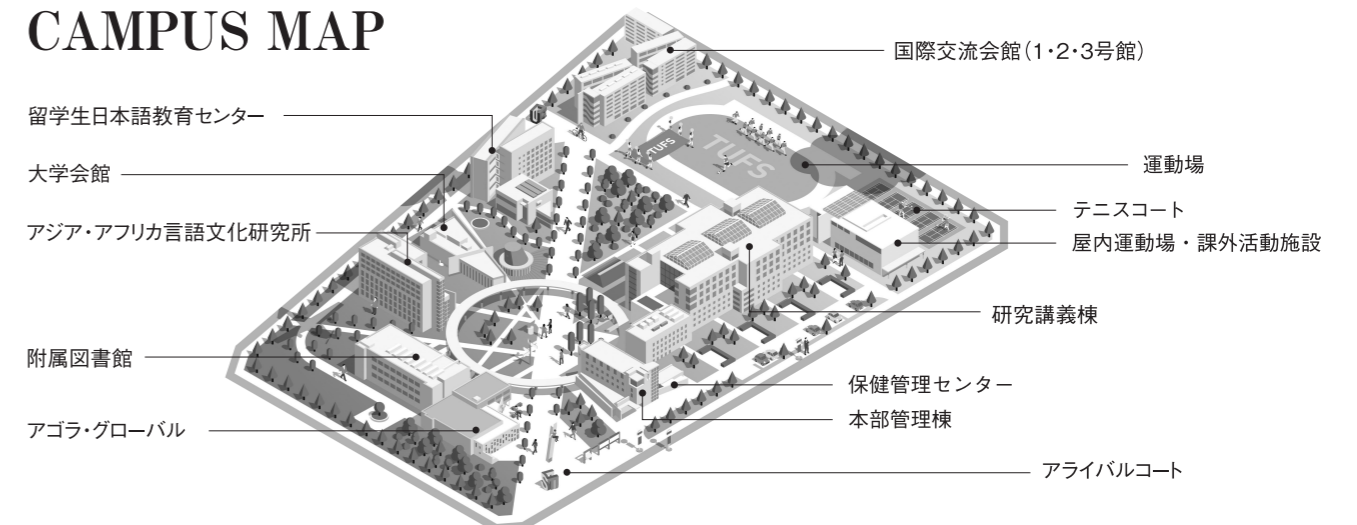
地区	校舎等敷地	屋外運動場	研修施設敷地	外国人教師宿舎敷地	職員宿舎敷地	合計
府中地区	102,443	27,557				130,000
戸田地区			1,671			1,671
田沢湖地区			4,488			4,488
吉祥寺地区				1,224		1,224
保谷地区					2,805	2,805
滝野川地区					2,029	2,029
本郷地区	95					95
合計	102,538	27,557	6,159	1,224	4,834	142,312

建物面積

(単位:m)

地区	校舎	図書館	体育館	福祉施設	研修施設	国際交流会館	寄宿舍	その他管理棟	外国人教師宿舎	研究所	職員宿舎	合計
府中地区	36,876	6,930	6,167	3,902		7,839	3,288	7,525		8,149		80,676
戸田地区					779							779
田沢湖地区					584							584
吉祥寺地区									764			764
保谷地区											1,732	1,732
滝野川地											1,920	1,920
本郷地区	724											724
合計	37,600	6,930	6,167	3,902	1,363	7,839	3,288	7,525	764	8,149	3,652	87,179

CAMPUS MAP



スーパーグローバル大学構想 目標指標

(2017年5月1日時点)

国際化のための多様性

(単位:人)

区 分	実績(年度)				目標(年度)
	2013	2014	2015	2016	2023
外国籍教員	38	40	42	42	65
外国の大学で学位取得の教員	49	48	48	49	54
3年以上海外で研究教育経験者(日本人)	48	48	44	46	53
外国籍事務職員	0	0	0	0	1
外国の大学での学位取得した事務職員	8	6	6	5	11
1年以上海外職経験の事務職員	4	7	7	10	10
女性教員	82	88	90	97	102
女性職員	45	48	50	50	55
外国人留学生(5月1日数)	558	606	615	628	809
外国人留学生(通年数)	698	733	786	802	1,216

国際化のための流動性(通年数)

(単位:人)

区 分	実績(年度)				目標(年度)
	2013	2014	2015	2016	2023
留学経験者(学部生)	119	386	669	723	1,740
留学経験者(院生)	0	7	30	27	30
院生派遣3か月以上	32	23	25	40	52
協定に基づく派遣学生	310	568	797	819	1,672
協定に基づく受入留学生	196	233	316	350	595

留学の全世界的展開

(単位:人)

区 分	実績(年度)				目標(年度)
	2013	2014	2015	2016	2023
北米へ	44	112	134	156	147
欧州へ	183	254	370	361	462
ロシア・中央アジアへ	66	71	81	89	178
アフリカへ	1	14	20	29	50
中近東へ	20	43	49	46	145
東南アジアへ	45	114	151	156	205
南アジアへ	1	21	24	20	113
東アジアへ	69	83	126	145	256
中南米へ	11	15	32	70	134
オセアニアへ	7	24	42	39	50

国際化のための語学力

区 分	実績(年度)				目標(年度)
	2013	2014	2015	2016	2023
外国語による授業科目数(科目)	144	149	242	201	290
英語による授業科目数(科目)	104	84	155	152	250
外国語のみで卒業できるコース数(コース)	1	1	2	2	7
語学基準(TOEIC800)を満たす学生数(人)	1,077	1,038	1,426	1,596	3,907
チャレンジ目標達成者[チャレンジ目標:TOEIC900、英語以外でCEFR-J/C1、英語を含め3つ以上の言語でB2](%)	0	11	13	15	60
Joint Education Program 実施数(件)	3	12	27	25	50

国際化のための国際開放度

区 分	実績(年度)				目標(年度)
	2013	2014	2015	2016	2023
奨学金の入学前伝達数(人)	20	3	10	16	60
混住型宿舍入居留学生(人)	57	75	117	102	250
混住型宿舍入居日本人学生(人)	167	140	99	99	170
海外拠点Global Japan Office 数(拠点)	0	4	10	12	38



その他目標指標は、東京外国語大学スーパーグローバル大学構想ウェブサイト参照。
URL : <https://tufs-sgu.com/>

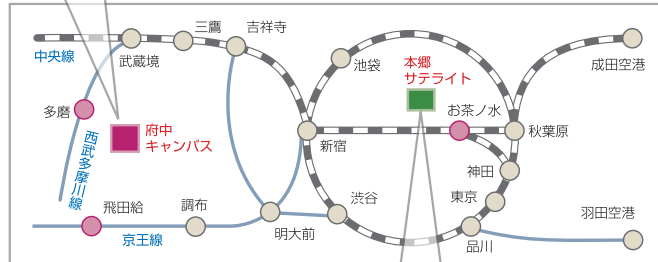


東京外国語大学 府中キャンパス

- JR中央線「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線
「多磨」駅下車
徒歩5分
(JR新宿駅から約40分)
- 京王電鉄「飛田給」駅北口より
多磨駅行き京王バスにて
約10分
「東京外国語大学前」下車

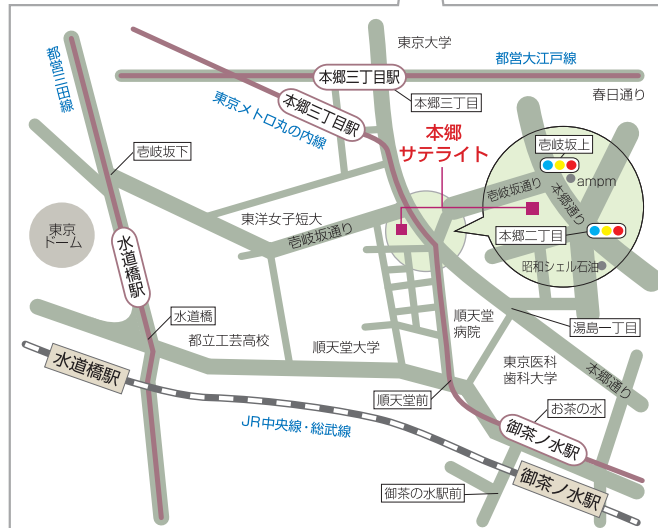


【路線図】



東京外国語大学 本郷サテライト

- 地下鉄(丸ノ内線・大江戸線)
「本郷三丁目」駅下車
徒歩5分
- JR中央線・総武線
「御茶ノ水」駅下車
徒歩10分



お問い合わせ先

府中キャンパス

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

Tel : 042-330-5111

本郷サテライト

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-10

Tel : 03-5805-3254